

## 車両コンセプト

BMW グループは、新型 BMW 7 シリーズ セダンで力強いメッセージを発信している。「Sheer Driving Pleasure（駆けぬける喜び）」を最も洗練された形で体現する 7 シリーズは、ラグジュアリーセグメントにおける主導的地位を確固たるものとしている。

### 新型 BMW 7 シリーズ——「ノイエ・クラッセ」のテクノロジーを搭載した初のラグジュアリーセダン。

情熱を注いで開発され、完璧を追求してデザインされた BMW 7 シリーズ セダンは、1977 年のデビュー以来、世界中でイノベーションのリーダーであり、技術のパイオニアとしての地位を確立してきた。各世代は、画期的な安全機能や革新的な操作コンセプトから、新たな基準を打ち立てるデジタルワールドに至るまで、その時代に新たな活力をもたらしてきた。この先見性のあるアプローチは、BMW 7 シリーズ セダンの象徴的な特徴であり続けている。

新型 BMW 7 シリーズは、BMW グループがこれまでに行った中で最も大規模なモデルチェンジである。第 7 世代を迎える新型 BMW 7 シリーズは、再び大きな飛躍を遂げた。BMW 製品ラインナップのフラッグシップモデルであり、ブランドの顔とも言える新型 BMW 7 シリーズ セダンは、「ノイエ・クラッセ」の技術を既存モデルに導入する上で先導的な役割を果たす。この一歩は、将来のすべての BMW クルマに恩恵をもたらす、世代や駆動方式のバリエーションを超えた技術展開の始まりでもある。

### 新型 BMW ラグジュアリークラスのデザインが初披露される。

新型 BMW 7 シリーズは、ラグジュアリーセグメントに向けた新たな BMW デザイン言語の独自の解釈を体現している。一体感のあるエクステリア、新型 BMW キドニーグリルの「Iconic Glow」、そしてミニマルなクリスタルヘッドライトが、視覚的に強烈な存在感を与え、一目で BMW とわかる特徴となっている。サイドビューは、面を削ぎ落としたデザイン、キャラクターライン、そして上品なディテールで印象的であり、リアエンドは新設計のライトと明確なフォルムによって形作られている。3

BMW M パフォーマンス・モデルは、際立ったスポーティな個性を際立たせ、M スポーツ・パッケージおよび M スポーツ・パッケージ・プロによってその特徴をさらに強調している。BMW インディビジュアルは、高度な技術と熟練の職人技が光る世界初の「BMW インディビジュアル・デュアルフィニッシュ」塗装をはじめ、幅広いパーソナライゼーション・オプションを提供する。20 インチのリムから新たに追加された 22 インチモデルに至るまで、厳選された純正ホイールが、その魅力をさらに引き立てる。

### 特別なインテリア体験：上質な素材、モダンなデザイン、革新的なテクノロジーが織りなす心地よい空間。

新型 BMW 7 シリーズ セダンのインテリアは、豪華な素材、モダンなデザイン、そして先進的なテクノロジーの見事な融合により、見る者の想像力を掻き立てる。洗練されたデザイン言語、レザー、ファブリック、ウッド、クリスタルガラス、メタルといった素材による高品質な表面仕上げ、そして革新的なディテールが、高級感あふれながらも居心地の良い雰囲気醸し出している。そのハイライトは、BMW パッセンジャースクリーン（初搭載）を備えた新型 BMW パノラミック iDrive、後席乗員に映画鑑賞や移動中の作業を可能にするアップグレードされた BMW シアタースクリーン、アンビエントライトストリップと新しい照明要素を備

えた没入感のある照明コンセプト、そして卓越したオーディオ体験を実現する Bowers & Wilkins サウンドシステムと Dolby Atmos に対応している。

人間工学に基づいて設計されたシート（コンフォートシートおよびオプションの「エグゼクティブ・ラウンジ」を含む）、新型ステアリングホイール、改良された自動ドア、デジタルインテリアミラー、そしてパノラミック・ガラス・サンルーフ、4ゾーン・オートマチック・クライメート・コントロール、トラベル&コンフォート・システムといった標準装備が、豪華で個性的な全体的な体験を完成させる。

### **BMW パノラミック iDrive と新型 BMW パッセンジャー・スクリーンが、エンターテインメントと情報の新たな次元を切り拓く。**

新型 BMW 7 シリーズは、ラグジュアリークラスのセダンが持つ長所と、革新的な BMW 「ノイエ・クラッセ」の技術を融合させ、ドライバーと乗客の両方に焦点を当てた、広範なデジタルユーザー体験を提供する。主な特長としては、BMW オペレーティングシステム X を搭載し、ドライバーへの視認性を最適化した「BMW パノラミック iDrive」、拡張された

Amazon Alexa+ AI テクノロジー<sup>10</sup>を搭載した「BMW インテリジェント・パーソナル・アシスタント」、そして将来を見据えた機能性を実現する強力なソフトウェアおよびエレクトロニクス・アーキテクチャが挙げられる。

BMW Maps によるナビゲーション機能の向上、使いやすいスマートフォン連携、BMW Digital Premium のデジタル M コンテンツ、BMW Digital Key Plus といった新機能に加え、数多くのオプションとなる BMW ConnectedDrive アップグレードや定期的な無線ソフトウェアアップデートにより、BMW 7 シリーズ セダンは卓越した柔軟性を備え、常に最新の状態を維持する。

標準装備の BMW パッセンジャースクリーンと、オプションの 8K ストリーミング、ゲーム、ビデオ通話に対応したオプションの BMW シアタースクリーンは、乗客向けの最高級のエンターテインメントであり、人気のサードパーティ製エンターテインメント機能は、車両が停車中もセントラルディスプレイで利用可能。

<sup>10</sup> 2026 年後半までに、BMW Operating System 9 および X を搭載するすべての BMW モデルで順次利用可能になる。提供範囲は、ドイツおよび米国市場を皮切りに段階的に拡大される。

### **技術のオープン性に対する確固たる取り組み：効率的な内燃エンジン、プラグインハイブリッド、そして完全電動モデルは、第 6 世代 BMW eDrive の円筒形セルなどの技術により、第 6 世代 BMW eDrive の円筒形セルなどの技術により、700 キロメートル/435 マイル (WLTP) を超える電気走行距離を実現している。**

新型 BMW 7 シリーズ セダンは、顧客に提供される多彩な駆動システムで、再びその魅力を発揮している。48V マイルドハイブリッド技術を搭載した高効率な内燃エンジンやパワフルなプラグインハイブリッドに加え、先進的な完全電気自動車モデルもラインナップされている。第 6 世代 BMW eDrive の一部である革新的な

円筒形セル（第 6 世代 BMW eDrive の一部）の採用により、完全電気モデルは大幅に延長された航続距離を実現し、現在では 700 キロメートル/435 マイル (WLTP) を超えた。さらに、ドライバーは、ユーザーフレンドリーでインテリジェントな充電ソリューション、充電に最適化されたルートプランニング、アダプティブ回生ブレーキ、そしてコスト最適化された充電のためのエネルギー市場への統合といったメリットを享受できる。極めて落ち着きと確かな走りを兼ね備えた BMW 740d xDrive に加え、新たに BMW 740 xDrive がラ

インナップに加わった。さらに、2つのプラグインハイブリッドモデルがラインナップを完成させる。加えて、計3つのBMW Mパフォーマンス・モデルが、新型BMW 7シリーズの「Sheer Driving Pleasure」への強いこだわりを見せている。

### **BMW Symbiotic Drive を搭載した先進の運転支援システムと AI の活用により、部分的な自動運転や駐車操作における快適性と安全性を最大限に高める。**

新型BMW 7シリーズ セダンは、先進技術を採用し、人工知能 (AI) の活用を拡大することで、部分的な自動運転や駐車操作における快適性と安全性の新たな基準を打ち立てる。革新的なSAEレベル2の運転支援システムとアクティブセーフティ機能が顕著な付加価値を提供する一方、BMW シンビオティック・ドライブはドライバーとクルマの相互作用を最適化する。「モーターウェイ・アシスタント」は、欧州の多くの国で時速130km (81mph) までのハンズフリー走行を可能にし、「シティ・アシスタント」はナビゲーションによる「Address-2-Address」移動をサポートするようになった

都市部において。BMW Maps の新しいドライバー支援表示機能により、ナビゲーションシステム使用時の状況把握がより容易になる。標準装備のアクティブセーフティ機能のラインナップは先代モデルに比べて拡充されており、標準装備のパークアシストや、AI を活用した駐車スペース検知・操作計画機能により、駐車操作が極めて直感的で快適になる。

### **走る喜びと乗る喜びの融合：ドライビング・ダイナミクスと快適性のユニークな組み合わせ。**

従来と同様、新型BMW 7シリーズ セダンは、圧倒的なドライビングダイナミクスと高級リムジン並みの快適性を備え、スポーツカーのような走りを求めるドライバーから、快適性を最優先する乗客まで、世界中の多様な顧客層のニーズに応える。標準装備のアダプティブ4つの電子制御ショックアブソーバーを備えた2軸エアサスペンションを含む革新的なシャシー技術により、BMW 7シリーズは卓越した走行性能と安全性を実現している。標準装備の20インチホイールに代わり、22インチホイールが初めて純正オプションとして用意された。オプションのインテグラル・アクティブ・ステアリングおよび「インテグラル・アクティブ・ステアリング」および「ロール安定化機能」を備えた「アダプティブ・シャシー・コントロール・プロフェッショナル」は、快適性と俊敏性の面で再び新たな基準を打ち立てる。Mスポーツ・パッケージによる専用のシャシー改良は、3つのMパフォーマンス・モデルと同様に、ダイナミクスをさらに一段階引き上げる。また、AI搭載のデジタル・タイヤコンディション・モニタリング、統合ブレーキシステム、アクチュエーター近傍でのホイールスリップ制限といった最先端機能により、最高水準のハンドリングと安全性が確保される。

### **最高レベルのセキュリティとラグジュアリーが融合：BMW 7シリーズ プロテクション。**

BMW 7シリーズ プロテクションは、極めて高いレベルの安全性、セキュリティ、そしてラグジュアリーを兼ね備えている。乗員を銃器や爆発物による攻撃から守り、VR9 認証を取得している。さらに、最高レベルの防護性能を示すVPAM 10 分類もオプションとして選択可能である。この性能を支えているのが、革新的な「BMW Protection Core」が支えており、鋼鉄、特殊合金、複合材料、防弾ガラスからなる多層装甲を備えている。サスペンションとブレーキは、BMW ならではのダイナミックな走りを維持できるよう特別にチューニングされている。新型BMW 7シリーズをベースとした新型「BMW 7シリーズ プロテクション」特別防護車両は、現在開発の最終段階にある。

### **サステナビリティへの注力：資源効率の高い開発・生産、革新的なCO<sub>2</sub>削減策、そして車両のライフサイクル全体にわたる TÜV 認証済みの透明性。**

新型BMW 7シリーズにおいて、BMW グループはすべての駆動システムバリエーションにわたり、サステナ

ビリティ戦略を拡大している。その焦点は、資源効率の高い製品開発、革新的な技術、そしてサプライチェーンから生産、使用段階に至るまでの車両のライフサイクル全体に適用される対策にある。特に BMW i7 においては、再生材料、再生可能エネルギー、そして第 6 世代 (Gen6) バッテリーセルやリサイクル素材を多く含むアルミホイールなどの採用による製造プロセスの最適化により、CO<sub>2</sub>e 排出量を大幅に削減した。2035 年までに CO<sub>2</sub>e 排出量を、360°のサステナビリティアプローチの一環である。透明性は、TÜV 認証を受けたカーボンフットプリント検証によって保証されている。

生産工程では、太陽光発電システムやバイオマス熱供給プラントを併用し、再生可能エネルギー源から発電された電力と熱を利用している。

### **BMW グループ・ディンゴルフィンク工場での生産。**

新型 BMW 7 シリーズ セダンの全モデルおよび駆動システムバリエーションは、BMW グループ・ディンゴルフィンク工場の単一生産ラインで製造される。ニーダーバイエルン州にあるこの由緒ある拠点は、BMW ならではの完璧なエンジニアリングへの情熱と、他に類を見ない熟練の職人技を融合させている。「ノイエ・クラッセ」技術の導入を開始することで、BMW グループ・ディンゴルフィンク工場は、再び新型 BMW ラグジュアリークラスモデルの主力工場としての役割を担うことになる。

新型 BMW 7 シリーズ セダンは、2026 年 4 月 22 日にワールドプレミアを迎える。生産開始および世界市場への投入は、そのわずか数ヶ月後の 2026 年 7 月から行われる。

## **エクステリア**

新型 BMW 7 シリーズ セダンのデザインは、存在感や視覚的なインパクトといった定評ある強みを、「ノイエ・クラッセ」の未来志向のスタイリングと融合させ、BMW のラグジュアリークラスモデルに向けた新たなデザイン言語を創り出している。大幅にアップグレードされたこのラグジュアリーセダンの格別な外観は、車内で体験できる卓越したドライビング体験と、技術的進歩への取り組みを体現している。

- **新機能：BMW ラグジュアリー・クラス・モデルの新たな顔。ラグジュアリー・セグメントに向けた、新しい BMW デザイン言語の独自の解釈となる。モノリシックな外観は、新しい BMW キドニー・アイコン・グローやミニマルな BMW Individual クリスタル・ヘッドライトと同様に、新型 BMW 7 シリーズ セダンを視覚的に際立たせ、一目で識別できるようにしている。**
- **新機能：特別なウェルカムおよびグッバイ・アニメーション、そしてダイナミック・ライト・カーペット。**
- **新機能：クリアで無駄を省いた表面、キャラクターライン、そして高品質なディテールを備えたサイドビュー。**
- **新機能：新設計のライトと簡潔な表面を備えたリアエンド。**
- **3 つの BMW M パフォーマンス・モデル。M スポーツ・パッケージと M スポーツ・パッケージ・プロが、この車を際立たせ、強烈な印象を与える。**

- **BMW Individual**：34年にわたり、車両のパーソナライゼーションを実現する最も特別な選択肢。新型BMW 7シリーズのエクステリアには、500種類以上のカラーおよびカラーコンビネーションが用意されている。
- **新登場**：最先端のテクノロジーと熟練の職人技が融合——BMW Individual デュアルフィニッシュは世界初となる。
- **新登場**：厳選されたホイールラインナップには、
- **20インチから22インチまでのサイズを網羅する厳選されたホイールラインナップ**。22インチモデルは、初めて工場オプションとして選択可能となった。

**BMW ラグジュアリークラスモデルの新たな顔。ラグジュアリーセグメントに向けた、新しいBMW デザイン言語の独自の解釈である。モノリシックな外観は、新しいBMW 7シリーズ セダンを視覚的に際立たせ、一目で識別しやすくしている。新しいBMW キドニーグリルの「Iconic Glow」や、ミニマルなBMW Individual クリスタルヘッドライトも、その特徴を際立たせている。**

「ノイエ・クラッセ」において、BMW グループはフロントエンドのデザインに新しく独自のアプローチを採用し、ブランドの全モデルに明確なアイデンティティと高い認知度をもたらす。新型BMW 7シリーズは、ラグジュアリーセグメントに向けたこの新しいデザイン言語の具体的な解釈を体現している。スポーツ性とダイナミズム、ラグジュアリーと快適性といった定評ある特質を「ノイエ・クラッセ」のデザイン原則と融合させることで、同モデルの系譜にシームレスに溶け込みつつ、同時に今後登場するBMW モデルの外観を明確に予見させる。その際立ったフロントエンドデザインは、BMW のモデルラインナップにおけるラグジュアリークラスのモデルにのみ採用される。

フロントエンドは、刷新されたイルミネーション付きBMW キドニーグリル「Iconic Glow」、新設計の2セクションヘッドライト、そして新デザインのBMW エンブレムを中心に構成されている。デイトタイムランニングライトのアイコンが織りなす、水平でミニマルなライトシグネチャー——オプションでBMW Individual クリスタルヘッドライトも選択可能——と、目を引くキドニーグリルのデザインが、このクルマの姿を強く印象づける。ボディカラーの広々とした面がフロントエンドのすべてのデザイン要素を囲み、その魅力を最大限に引き立てている。このようにして、新型BMW 7シリーズ セダンの一体感のあるデザインは、「ピュア・エクセレンス」のベースモデルから上位モデルに至るまで、すべてのモデルにさらなる視覚的なインパクトを与えている。

新しい水平のグラフィックを採用したBMW のキドニーグリル「Iconic Glow」は、刷新されたフロントエンドデザインの象徴的な要素でもある。先代モデルよりもスリムで縦長のプロポーションとなり、BMW のラグジュアリークラスならではの趣を「ノイエ・クラッセ」のデザイン言語に吹き込み、キドニーグリルにさらに威厳あるオーラを与えている。これは特に、このセグメントでは唯一無二であり、現在ではインテリア全体に採用されている標準装備のカウンターライティングと組み合わせた際に顕著であり、この照明はエンジン始動時に点灯する。

レーダー、カメラ、センサー、ウォッシャーノズルといった技術的な機能は、キドニーグリルの周囲に目立たない形で統合されており、すっきりとした広々としたデザインを実現している。

BMW のキドニーグリルとボンネットが交わる部分には、新たにデザインされたBMW エンブレムが配置され

ている。これは以前より大きくなり、マット仕上げとなっている。ボンネット上に力強く伸びる2本の新しいキャラクターラインの間の窪みに、宝石のように埋め込まれている。

ヘッドライトは新デザインとなり、フロントエンドに洗練された技術的な雰囲気を出している。ライト機能は従来通り、2つの独立したセクションに分かれている。

視覚的な焦点は、デイトタイムランニングライト、サイドライト、ターンシグナルを構成する、極めてスリムで精密にデザインされた上部ライト要素にある。オプションのBMW Individual クリスタルヘッドライト「Iconic Glow」は、1灯あたり12個のクリスタルガラス要素を備えており、そのダイヤモンドカットが光を多面的に反射することで、独特で格別に高級感あふれる外観を生み出す。実際、この進化したクリスタル構造は独自の美しさを醸し出し、陽光が当たると優雅な輝きを放ち、フロントエンドに生命を吹き込む。始動時のアニメーション中、デイトタイムランニングライトが点灯している際や暗闇の中では、LEDユニットがクリスタルをバックライトで照らし、キドニーグリルの輪郭照明と相まって、紛れもないライトシグネチャーを創り出す。

ロービームとハイビームのヘッドライトは、ヘッドライトユニットの下部に配置されている。この部分は先代モデルに比べて大幅に小型化されており、現在は光源を1つだけ使用し、ボディの外縁にあるエアカーテンの近くに、縦方向に配置され、ほとんど目立たないようにしている。これらのライトは、例えば夜間に点灯した時など、点灯している時のみ視認可能であり、そのデザインは、すっきりとした落ち着いた、一体感のあるフロントエンドの印象を作り出すのに一役買っている。コーナリングライトとマトリックス・ハイビームを備えたアダプティブLEDヘッドライトは、最大600メートルの照射距離と、眩しさを抑えるBMWセレクトビーム・ハイビームアシスタントを備え、新型BMW 7シリーズに標準装備されている。

### **特別なウェルカムおよびグッバイ・アニメーションとダイナミック・ライト・カーペット。**

新しいウェルカムおよびグッバイ・アニメーションは、車両へのアクセスにシームレスでパーソナライズされた体験をもたらす。乗客が旅の前にクルマに近づく時から、旅の後に再びクルマから離れる時までを演出する。

新型BMW 7シリーズは、光の効果と投影を巧みに組み合わせた演出で、標準装備として「ウェルカム」を演出する。顧客は「RELAXED」、「BALANCED」、「EXCITED」の各モードからアニメーションを選択できる。旅の終わりには、同様に精巧に演出された「グッバイ」アニメーションがクルマから投影される。

このアニメーションの新たな要素が「セレモニアル・ライト・カーペット」。ドアシルに組み込まれた19万4000ピクセル以上のLEDライトが、ドア付近の地面にダイナミックなグラフィック光のパターンを投影する。また、オプションとして「セレモニアル・ライト・カーペット」も用意されており、これはアニメーションモードに応じて表現が変化するダイナミックなバージョンとなる。

### **存在感を放つ：クリアで無駄を省いた表面、キャラクターライン、そして高品質なディテールが際立つサイドビュー。**

新型BMW 7シリーズ セダンのモノリシックなデザインは、車体の側面にも引き継がれている。ここでは、フロント・エプロンからドアシルを経てリアへと伸びるキャラクターラインなど、新たなデザイン言語が表現されている。この精緻かつ洗練された細部は、セダンのスタイルにさらなる魅力を与えている。この新たな

なラインは、後方 3/4 ビューにおいて BMW 7 シリーズにポートテールを思わせるキャラクターを与え、視覚的な長さや優雅さをさらに際立たせている。

BMW 7 シリーズの新たにデザインされたドアハンドルは、伝統的なハンドル用くぼみにドア面と面一に組み込まれており、すっきりとしたミニマルな外観を引き立てている。外装色に応じて、ドアハンドルのトリムは対照的なパール調クロームまたはブラック・ハイグロスで仕上げられる。片側の両サイドドアを開けると、B ピラーに浮き彫りにされた印象的な「7」の文字が現れる。

### **新設計のライトと無駄を省いた表面が特徴のリアエンド。**

新型 BMW 7 シリーズ セダンのリアは、他の部分と同様に、明快で無駄を省いたデザインを踏襲している。ここで重要な要素となるのが、完全に新設計されたリアライトである。リアエンドの奥深くまで伸びるそのスリムで細長いフォルムは、新型 BMW 7 シリーズの広々としたスポーティなスタンスを際立たせている。リアライトユニット内部には、クロームストリップが配置され、高品質な視覚効果と精密な光のパターンを生み出している。スモークガラス風の外観は、ライトが消灯している時でさえ、最先端のエレガンスを演出している。

トランクの開閉機能、リアビューカメラ、カメラ用ウォッシャーノズルといったすべての技術的コンポーネントは、ライトの黒い部分にほぼ目立たないように統合されている。これにより、リアエンドの表面とライトが最大限に際立つようになっている。新型 BMW 7 シリーズのフロントと同様に、リアエンドの新型 BMW エンブレムもわずかな窪みに組み込まれており、リアライト間の表面によって宝石のように縁取られている。

簡潔なフォルムと滑らかな表面が、まるで一つの型から切り出されたかのようなリア・エプロンのデザインを際立たせている。エキゾースト・テールパイプ（BMW M760e xDrive を除く）は、リアエンドの下部に目立たないように一体化されている。ディフューザーのような形状が、モダンでテクニカルな印象を生み出している。

### **3 つの BMW M パフォーマンス・モデル。M スポーツ・パッケージと M スポーツ・パッケージ・プロが、このクルマを際立たせ、強烈な印象を与える。**

ブランドの伝統に深く根ざしたスポーティな性能が、新世代 BMW 7 シリーズ セダンを競合他社の一歩先へと押し上げている。これは、新型 BMW 7 シリーズ セダンをベースとする BMW M パフォーマンス・モデルにおいて、この点は特に際立っている。BMW i7 M70 xDrive と BMW M760e xDrive は、このラインナップにおけるスポーツ性能の先鋒であり、そのダイナミックなキャラクターを疑いの余地なく示す数々の専用デザイン要素で印象を残す。2027 年には、従来の V8 エンジンを搭載した別の BMW M パフォーマンス・モデルがラインナップに加わる予定だ。

フロントエンドは、際立つフロント・エプロンによって最大の視覚的インパクトを生み出している。BMW i7 M70 xDrive と BMW M760e xDrive では、エアカーテンと中央のフロントエアインテークが、姉妹モデルよりも大型化されている。同時に、フロント・エプロンの下部に設けられた小さなスポイラーリップが、視覚的に車の重心を低く見せ、路面への密着感を高めている。

同様に、新型車の BMW M Performance モデル限定の BMW 7 シリーズ セダンでは、BMW M ロゴをあしらった専用グラフィックを採用し、BMW キドニー・アイコニック・グロー・グリルを際立たせている。さらに、

サイドウィンドウのホフマイスター・キंक部分やリアライトの外縁にも BMW M バッジが配置されている。BMW キドニー・アイコニック・グローの照明は、よりスポーティな印象を与えるため、明らかに暗く調整されている。BMW M パフォーマンス・モデルに採用された BMW Individual クリスタル・ヘッドライト・アイコニック・グローには、特に印象的な外観を実現するため、スモークブラックのクリスタルが使用されている。

BMW M モデル特有の「Seehaus」ストライプをあしらった、ブラック・ハイグロス仕上げの新型 M サイドミラー、ブラック・ハイグロス仕上げのウィンドウフレーム、そしてブラックのサイドスカートが、車体の側面をさらに際立たせている。M 専用のウェルカムライト・アニメーションと同様に、ダイナミック・ライト・カーペットもまた、このクルマの M の DNA を反映した独特の外観となっている。

BMW M760e xDrive のリアには、ディフューザーの両脇に、特徴的なフォルムを持つツイン・テールパイプが配置されている。その立体的なデザインが、ディフューザーの存在感を際立たせている。BMW i7 M70 xDrive のディフューザーは、このモデル特有の仕様として、リアのほぼ全幅にわたって広がり、極めてスポーティな外観を演出している。リアバンパーの外縁にある垂直リフレクターは、BMW 7 シリーズ セダンのワイドなスタンスを強調している。控えめなブラック・サファイア色の M リアスポイラーが、そのスポーティなキャラクターに仕上げのアクセントを加えている。

その他のハイライトとして、バイカラー仕様の新しい 21 インチ M エアロダイナミックホイールが挙げられる。ジェットブラックに、異なるサイズのタイヤと、ブラック・ハイグロス・キャリパーを備えた極めて強力な M スポーツブレーキを組み合わせた仕様となる。

オプションの M スポーツ・パッケージおよび M スポーツ・パッケージ・プロにより、新型 BMW 7 シリーズ・セダンのどのグレードにも、さらにスポーティなアクセントを加えることができる。

両オプションには M エアロダイナミクスパッケージが含まれており、これによりモデル専用の M スポーツエクステリアデザインが実現される。フロントおよびリアバンパーの M 専用形状（その大部分がブラック仕上げ）に加え、目立つエアインテーク、大型エアカーテン、リアディフューザーもすべて含まれる。さらに、M 専用サイドスカート、M ハイグロス・シャドウライン、そしてブラック・ハイグロスのサイドウィンドウサ라운드とミラーベースも装備される。その他の特徴としては、20 インチ M エアロダイナミックホイール、ダークブルーメタリックのキャリパーを備えた M スポーツブレーキ、BMW M バッジをあしらったドアシルストリップ、そして M 専用のダイナミックライトカーペットを伴う特別なウェルカムおよびグッバイアニメーションが挙げられる。

さらに高いダイナミズムと独自性を提供する「M Sport パッケージ Pro」は、ダークカラーの BMW M キドニーグリルデザイン、21 インチダークカラーの M エアロダイナミックホイール、そして BMW M ハイグロス・シャドウライン（拡張仕様）が含まれる。これには BMW キドニー・アイコニック・グローやダーク仕上げのリアライトも含まれる。さらに、M スポーツ・パッケージ・プロにはブラックの M リアスポイラーと、ブラック塗装のキャリパーを備えた M スポーツ・ブレーキシステムも含まれる。

**BMW Individual : 34 年にわたり、車両のパーソナライゼーションを実現する最も特別な選択肢。新型 BMW 7 シリーズのエクステリアには、500 種類以上のカラーおよびカラーコンビネーションが用意されている。**カール・ラガーフェルドによる BMW 750iL E32 といった象徴的なプロジェクトを礎に、BMW Individual は

長年にわたり、オーダーメイドの車両カスタマイズを提供する幅広いラインナップへと発展してきた。新型 BMW 7 シリーズの購入者は、明快な構成のアプローチの恩恵を受けることができる。

- BMW コンフィギュレーターでは、おなじみのカタログオプションに加え、新色の「バンクーバー・グリーン」メタリック塗装や、新デザインのサティネ仕上げアルミニウム製エクステリアアクセントが提示される。
- また、BMW コンフィギュレーターを使用して、12 種類の BMW Individual インテリア・バリエーションや、約 130 種類以上の BMW Individual ペイント仕上げから選択できる。これには、同じく新色の BMW Individual フローズン・スペース・シルバーも含まれる。利用可能なツートーン・オプション（ソリッド、メタリック、そして新たにフローズン/フローズン、メタリック/フローズン）の多様性により、顧客は新型 BMW 7 シリーズのエクステリアについて 500 種類以上のカラーおよびカラー・コンビネーションを検討することができる。
- さらに、顧客は新型 BMW 7 シリーズの限定特別仕様車を注文することも可能で、BMW Individual Manufaktur によるオーダーメイドのワンオフカーに至るまで、幅広い選択肢が用意されている。

#### **最先端のテクノロジーと熟練の職人技が融合：BMW Individual デュアル・フィニッシュは世界初となる。**

新しい BMW Individual デュアルフィニッシュ塗装コンセプトは、まさに唯一無二となる。この複雑な工程では、車体下部のマット塗装とボディ上部には手作業で施されたメタリック仕上げが組み合わされる。同じく手描きによるコーチラインと相まって、控えめでありながら極めてエレガントな外観を生み出している。

何よりも、この 2 つの塗装仕上げの境界部分こそが、この BMW の革新技术の卓越した品質と、それを施す従業員の熟練した職人技を如実に物語っている。メタリック塗装とマット塗装は組成が大きく異なるが、BMW Individual デュアル・フィニッシュでは、2 つの仕上げが接する部分に目立つ境界線は存在しない。

BMW Individual デュアル・フィニッシュ塗装は、現在の塗装技術において実現可能な頂点を極めたといえる。専門家たちは 2 年半をかけてこの革新的な技術を開発した。現時点では BMW グループ・ディンゴルフィンク工場でしか使用できず、以下のモデルのみに適用可能である。

BMW 7 シリーズ セダン。20 名以上の専門訓練を受けた従業員が、塗装工程の 12 のステップそれぞれにおいて、手作業で車両を準備するという複雑なプロセスに携わっている。彼らが担当する作業には、手作業によるマスキングや、手塗り塗装の準備としてボディを研磨することが含まれる。作業時間の約半分は、こうした手作業に費やされている。BMW Individual デュアル・フィニッシュを注文した各車両は、塗装工場で 75 時間以上、つまり丸 3 日以上を過ごすことになる。これは従来の塗装仕上げに比べて約 6 倍の長さである。

厳選されたホイールラインナップには、20 インチから 22 インチまでの軽合金リムが含まれる。22 インチモデルは、初めて工場オプションとして選択可能となった。

新型 BMW 7 シリーズ セダンには、厳選された高品質な軽合金ホイールも注文可能。20 インチの軽合金ホイールが標準装備となり、M モデルには新しい 21 インチ M エアロダイナミックホイールが標準仕様として採用されている。また、BMW 7 シリーズ セダンで初めて工場出荷時オプションとして用意された 22 インチの BMW Individual 軽合金ホイールも、もう一つの見どころとなる。

## インテリア

存在感、優雅さ、そして比類なきプレミアム品質は、新型 BMW 7 シリーズ セダンのインテリアにも表れている。ここでは、明快で無駄のないデザイン言語が、ハイテクな「ノイエ・クラッセ」のテクノロジーと融合し、卓越した車内環境を創り出している。

レザーやファブリックの表面からウッドトリム、さらにはクリスタルガラスやメタルのアクセントに至るまで、厳選された素材が加わることで、モダンでありながらラグジュアリーな雰囲気が醸し出されている。

インテリアは、BMW 7 シリーズ セダンが定評のある、卓越したダイナミクスと長距離走行の快適性のバランスを体現している。ドライバーは、圧倒的なダイナミズムと明確なドライバー志向を兼ね備えた車を体験できる一方、乗客は最高級の心地よい空間を満喫できる。

- **新機能：インテリアの再設計により、BMW パノラミック iDrive が採用され、助手席用ディスプレイ「BMW パッセンジャー・スクリーン」が初搭載された。**
- **新機能：プライベートシネマラウンジからモバイルワークステーションまで、アップグレードされた BMW シアタースクリーンが再び新たな基準を打ち立てる。**
- **新機能：新しいアンビエントライトストリップと新たな照明要素による、没入感のある照明体験。**
- **新機能：Bowers & Wilkins サウンドシステムと Dolby Atmos 対応により、高水準のリスニング体験を実現。音響性能も向上した。**
- **新機能：高品質な素材、上品な装備、革新的なディテールが快適性を最大限に引き出す。オーナーは、約 700 通りの方法でインテリアデザインを自身の好みに合わせてカスタマイズできる。**
- **最高クラスのシート快適性。標準装備のコンフォートシートに加え、後部座席にはオプションのエグゼクティブ・ラウンジが用意されている。**
- **新機能：新しいデザインと操作哲学を採用した、人間工学に基づいた直感的なステアリングホイール。**
- **ソフトクローズ機構を搭載した新型自動ドアは、抜群の使いやすさを実現している。**
- **新機能：デジタル室内ミラー。**
- **標準装備として採用された高品質な装備には、**
- **パノラミック・ガラス・サンルーフ、4 ゾーン・オートマチック・クライメート・コントロール、そして「トラベル&コンフォート」モジュラー・アクセサリ・システム。**

## **インテリアの再設計では、BMW パノラミック iDrive と、助手席用ディスプレイ「BMW パッセンジャー・スクリーン」が初採用された。**

ディスプレイおよびオペレーティングシステム「BMW パノラミック iDrive」と「BMW オペレーティングシステム X」という形で「ノイエ・クラッセ」のテクノロジーが統合され、BMW ならではのドライバー志向に新たな次元が開かれ、BMW 7 シリーズ セダンのインテリアを個人の好みに合わせてカスタマイズする新たな可能性を切り開く。

新しいインストルメントパネルは、フリーカットデザインの「フローティング」セントラルディスプレイを際立たせる舞台となっており、このディスプレイはステアリングホイールの隣という、人間工学的に理想的な位置に配置されている。

その隣には、デザインを決定づけるもう一つの重要な要素である新型フロント・パッセンジャー・ディスプレイが配置されている。BMW パッセンジャー・スクリーンは、新型 BMW 7 シリーズ セダンにおいて BMW ブランド初となる搭載を果たした。エントリーモデルの「ピュア・エクセレンス」から全モデルに標準装備されている。

フロントガラスの全幅、A ピラーから A ピラーまでを覆う投影面を備えた「BMW パノラミック・ビジョン」と、新型マルチファンクション・ステアリング・ホイールも、新型 BMW 7 シリーズ セダンの最先端のインテリアに大きく貢献している。

## **プライベートシネマラウンジからモバイルワークステーションまで、アップグレードされた BMW シアタースクリーンは、再び新たな基準を打ち立てる。**

新型 BMW 7 シリーズ セダンのオプションリストにおける目玉の一つが、BMW シアタースクリーン。8K 解像度の 31.3 インチタッチスクリーンと、ドルビーアトモス対応のオプション装備である Bowers & Wilkins ダイヤモンド・サラウンド・サウンド・システムにより、新型 BMW 7 シリーズの後部座席は、特別なシネマラウンジへと変貌する。内蔵カメラにより、乗客はまるでモバイルオフィスのように簡単にビデオ通話を行うことができる。また、HDMI 接続により、BMW シアタースクリーンは拡張されたコンピューターディスプレイとして機能する。

BMW シアタースクリーンを展開するだけでも、それ自体がひとつの体験となる。展開プロセスにはサウンドアニメーションが伴い、サイドウィンドウ、リアウィンドウ、パノラミック・グラス・サンルーフのサンブラインドが閉じられ、同時に後部座席のアンビエント照明が暗くなる。乗客は、BMW シアタースクリーンの位置を自分の好みに合わせて簡単に調整できる。リアドアに搭載された、同様にアップデートされた「BMW Touch Command」デジタルコントロールモジュールは、スクリーンを前後にスムーズに動かすだけでなく、視野角の調整にも使用される。BMW シアタースクリーンの体験をさらに引き立てるのは、Bowers & Wilkins スピーカーと Dolby Atmos 対応による没入感のあるサウンドである。

## **新しいアンビエントライトストリップと新しいライトエレメントによる没入感のある照明体験。**

BMW 7 シリーズ セダンの新しいインテリア照明コンセプトは、個人の好みに合わせた調和のとれた没入感のある体験でドライバーを迎える。車外で展開されるウェルカムアニメーションは車内へとシームレスに続き、照明、サウンド要素、そしてパーソナライズされた設定が見事に調和した全体的な演出を織りなす。

数多くの照明要素が、柔らかく均一に広がる拡散光を生み出し、包み込むような効果をもたらす。洗練されたモダンなデザインが、車内に心地よく特別な雰囲気を醸し出す。

このアニメーションの重要な要素であり、インテリアデザインの中心となるのが、コックピットの全幅にわたって配置された新しいアンビエントライトストリップ。日中は繊細なアラバスターのような質感で光り、暗闇では適度にダイナミックな光の効果を生み出す。光の色と明るさは時間帯に応じて変化し、他のすべての照明要素と同様に、「My Modes」経由または直接操作で個人の好みに合わせて調整できる。

新型 BMW 7 シリーズ セダンのスタイルを決定づける 2 つ目のデザイン要素は、ヘッドレストの高さに位置するフロントシート背面にシームレスに組み込まれた新しい照明要素だ。縦に配置されたこれらのライトは、没入感のある光の雰囲気を後部座席エリアへと優雅に広げている。

3 つ目は、オプションでイルミネーション機能を装備可能な「スカイ・ラウンジ」パノラミック・グラス・サンルーフ。40 個以上の LED ライトが、車内全体に広がるグラフィック構造を照らし出す。そのパターンは、シート表面のキルティング模様を再現している。ライト効果の色調も、ここで選択された「My Mode」に連動するほか、個別に設定することも可能。

リアドアの内側から照らされるスピーカーカバー、後部座席に新設された追加の読書灯、その他の照明要素が、このライティングコンセプトを完成させている。

### **Bowers & Wilkins サウンドシステムと Dolby Atmos 対応により、高水準のリスニング体験を実現する。音響性能も向上している。**

新型 BMW 7 シリーズ セダンには、Bowers & Wilkins サラウンドサウンドシステムが標準装備されている。7 バンド・イコライザーと、魅力的なメタルカバーを備えた最大 18 個のスピーカーを特徴とする。アンプ出力は最大 655 ワットに達する。

オプションの Bowers & Wilkins ダイヤモンド・サラウンド・サウンド・システムは、真にハイエンドなオーディオ体験を提供する。最大 36 個のスピーカーと最大 1,965 ワットのアンプ出力により、あらゆる音を完璧に再現し、この分野における新たな基準を打ち立てる。

7 シリーズクラス。フルアクティブ・オーディオシステムには、7 バンド・イコライザーと、丹念に作り込まれた 7 種類のサウンドプロファイルが搭載されている。追加のサラウンドスピーカーは、フロントシートと後部座席の両端のヘッドレストに組み込まれている。また、このサウンドシステムには 4D オーディオ機能も備わっており、フロントおよびリアシートの背もたれに設置されたエキサイターにより、低音域の聴き取りやすさを、音量が小さい場合でも向上させる。

「Bowers & Wilkins ダイヤモンド・サラウンド・サウンド・システム」を装備した車両では、ドルビーアトモス品質による特に豊かで多彩なオーディオ体験が楽しめる。ドルビーアトモスは、対応オーディオフォーマットにおいて 3 次元的なサウンドスケープを創出し、車室内でサウンドオブジェクトを自由に移動させることができる。そのため、新型 BMW 7 シリーズ セダンは、映画や音楽のストーリーミング再生時に、没入感あふれる新たなオーディオ体験を提供する。

BMW 7 シリーズ セダンのさらに向上した車内静粛性は、究極のオーディオ体験を楽しむための理想的な環

境を創り出す。サイドウィンドウのフラッシュフィッティング・シール（「フラッシュ・グレージング」）、標準装備の音響ガラス、フロントアクスル・サブフレームに装着された弾性ステアリングギア・マウント、BMW i7 に追加されたモデル専用モーターマウント、そして一体型の防音効果を持つ内部フォーム・アブソーバーを内蔵したタイヤに加え、7シリーズは、さらなる空力音響最適化が施されたドアミラー・キャップや、改良されたドアの防音性能も備えている。

**高品質な素材、上品な装備、そして革新的なディテールが快適性を最大限に引き出す。オーナーは、約700通りの方法でインテリアデザインを自身の好みに合わせてカスタマイズできる。**

表面、質感、細部の入念な選定、仕上げ、そして演出こそが、上質さと特別感を醸し出すインテリアを生み出す鍵となる。

この細部へのこだわりは、新型BMW 7シリーズ セダンのインテリアのさまざまな側面に見られる。

インストルメントパネルとセンターコンソールには、標準装備として「ファインライン・ライム」のオープンポア・マット仕上げ高級木目トリムが標準装備されている。オプションとして、「ミラー・オーク」高級木目トリム（グレー・メタリック・ハイグロス）、BMW Individual アッシュ・フローイング・グレーのオープンポア・ファインウッド・トリムストリップ、そして初めて採用された、各インテリアカラーに合わせたアルカンタラ製インテリア・トリムストリップなどがある。

このオプションを選択すると、センターコンソールのトリムストリップは高級感あふれるピアノブラックとなる。カーボンファイバーM インテリアトリム（シルバースレッド入り）は、センターコンソールのピアノブラックと組み合わせ、BMW M モデルおよびM スポーツ・パッケージを装備した車両に、特にスポーティな雰囲気醸し出す。

インストルメントパネルのすっきりとしたデザインは、ドアパネルのトリムにも引き継がれている。ここで目を引くのは、頻繁に使用する機能をエレガントにまとめ、実用性にも優れた新しいコントロールパネル。シートバックレスト、前後位置、シート高さ調整の操作部はクリスタルガラス製となっており、顧客が楽しめる卓越した仕上げの品質だけでなく、素晴らしい外観と手触りも提供している。

BMW Individual CraftedClarity のガラス素材は、新設計のセンターコンソールにも採用されており、スタート／ストップボタン、ギアセクターレバー、音量調節ボタンに使用されている。一体型のカップホルダーは照明付きであり、最大15ワットの電力で誘導充電が可能な一体型スマートフォントレイは、柔らかなアルカンタラで仕上げられ、スマートフォンを確実に固定するマグネットホルダーを備えている。ドライバーがスマートフォントレイにスマートフォンを置き忘れた場合、グッバイ・スクリーンにアラートが表示され、そのことを知らせる。

新しい全電動式のスロット型エアベントは、インストルメントパネルにほとんど目立たない形で統合されている。このデザインソリューションは、全体としてすっきりとした整然としたインテリアの印象を際立たせている。気流はセントラルディスプレイを介して直感的かつ精密に制御できる。

お客様は、豊富なインテリア仕様やカラーコンビネーションから選択し、愛車のインテリアデザインに個性を加えることができる。インテリアのすべての要素がスタイリッシュに調和している。

新型 BMW 7 シリーズには、3 色のバリエーションが用意された新素材「ベガンザ」のシート表皮が標準装備されている。革のような質感を持つこの高品質な素材は、特に心地よい肌触りが特徴で、高い快適性を提供する。シート表皮にはパーフォレーション加工が施され、際立ったキルティングが施されている。ヘッドライニングは、選択したカラーオプションに応じて、アントラサイトまたはアイボリーホワイトとなる。

M スポーツ・インテリアは、BMW M パフォーマンス・モデルの標準装備であり、M スポーツ・パッケージのいずれかを指定した車両にはオプションとして提供される。ベガンザ製シート表皮の代わりに、顧客はオプションとして、BMW M GmbH のカラーをアクセントに施したブラック／アトラス・グレーの BMW インディビジュアル・メリノレザーを注文できる。同様にオプションとして

BMW Individual インテリアには、BMW Individual メリノレザーも採用されている。カラーはブラック、モカ、スモークホワイト、またはタルトゥーフォから選択可能で、精巧なキルティングが施されている。選択した装備オプションに応じて、ヘッドライニングはアントラサイトまたはアトラス・グレーとなる。オプションリストには、BMW M アントラサイト・アルカンタラ製ヘッドライニングも含まれている。

特別な要素を備えたオプションの BMW Individual インテリアは、BMW 7 シリーズの車内における快適さを、さらに新たな次元へと引き上げる。

この仕様には、拡張された BMW Individual メリノレザートリムに加え、新色のアデレード・グレーが含まれる。レザーの色をブラック、モカ、またはアデレード・グレーに指定した場合、BMW Individual アルカンタラ製ヘッドライニングはアントラサイトとなる。一方、スモーク・ホワイトとタルトゥーフォの組み合わせには、アトラス・グレーのヘッドライニングが採用される。メリノレザーのツートンカラー仕様は、インテリアに格別な高級感をもたらし、エクスクルーシブ・エレメントを備えた BMW Individual インテリアのオプションとしても注文が可能。お客様は、スモーク・ホワイト／ライト・グレー、ブラック／ダーク・グレー、キャラメル／アトラス・グレーの組み合わせから選択できる。

BMW Individual のインテリアは、スモーク・ホワイト／アトラス・グレー、あるいはブラック／ダーク・グレーのカラーコンビネーションで、BMW Individual メリノレザー／カシミアウールを使用した特別な要素を備え、卓越した品質と極めて居心地の良い雰囲気とを約束する。シート上部のレザーと下部のカシミアを豊富に含んだファブリックとの、見事に調和した色のコントラストに加え、精巧なキルティングと繊細なパーフォレーションが、視覚的にも触覚的にも独特な印象を生み出す。複雑で対称的な刺繍模様が施されたこれらのシートは、インテリアの中でも特に目を引く存在となっている。

この特別なカシミアウール素材の組み合わせは、センターアームレストやネッククッションにも適用可能。

### **最高級の座り心地：後部座席には標準装備のコンフォートシートと、オプションのエグゼクティブ・ラウンジが用意されている。**

BMW 7 シリーズ セダンの標準装備には、幅広い電動調整機能を備えたマルチファンクションシートに加え、運転席および助手席用のシートヒーターとランバーサポートが含まれる。シートの位置は、ドアトリムに新設されたコントロールパネルやセントラルディスプレイを使って簡単に調整できる。標準装備のマルチファンクションシートには、アクティブシートに加え、9 つのプログラムと 3 段階の強度設定を備えたマッサージ機能も備えている。マルチファンクションシート、アクティブシートベンチレーション、マッサージ機能は、後部座席にも追加可能。後部座席の調整は、ドアトリムに配置されたタッチ操作式の「BMW タッチコマンド」デジタルコントロールパネルで行う。

後部座席をオプションの「エグゼクティブ・ラウンジ」仕様で注文した場合、BMW シアタースクリーンは特に使い勝手が良い。卓越した着座快適性を提供するエグゼクティブ・ラウンジは、助手席後方のエリアに一体型レッグレストを備え、オプションのキルティング加工・ヒーター付きアームレストには、高品質なガラスインサートと、アルカンタラ張りのスマートフォン用トレイ（誘導充電機能付き）が組み込まれている。背もたれと背もたれ上部の角度、シートの前後位置、シート角度を連動して調整することで、胴体角度最大 43° の極めて快適なリクライニング姿勢を実現する。

レッグレストの設計コンセプトはユニークで、ふくらはぎを支える部分が隙間なくシート表面に直接固定されている。助手席は最前端までスライドさせ、背もたれを最大限前方に倒すことで、後部座席の乗客にとって理想的な着座位置と足元スペースを確保できる。調整機構は、運転手が助手席側のサイドミラーを確認できるよう最適化されている。

### **人間工学に基づいた直感的な操作性を備えた、新デザインかつ新たな操作哲学を採用したステアリングホイール。**

最大 3 色のカラーバリエーションを備えた 5 種類の新型ステアリングホイールは、目を引くデザインと優れた人間工学、高品質な素材を融合させている。標準装備の新型レザーステアリングホイールは、わずかにフラットなデザインと垂直スポークを採用し、BMW パノラミック iDrive ディスプレイおよび操作コンセプトの不可欠な要素となっている。ハプティック・フィードバック機能を備えたマルチファンクション・ステアリングホイールは、シャイ・テック（Shy-Tech）の原則に従い、ドライバー・アシスタンス機能（装備されている場合）の操作部が点灯する仕組みとなっている。

すべてのスモーク・ホワイト内装バリエーションで選択可能な、ダークシルバーのベゼルを備えたスモーク・ホワイトの BMW Individual ステアリングホイールは、特にスタイリッシュな印象を与える。

BMW 7 シリーズ セダンの BMW M パフォーマンス仕様車には、M レザーステアリングホイールを設定できる。M の血統を象徴する視覚的な特徴として、12 時位置の赤いマーカー、BMW M バッジ、M カラーのステッチが挙げられる。スポーツ・ブースト機能と M モードを起動するボタンは、人間工学に基づいて最適な位置に配置されており、ドライバーは親指で操作できる。BMW M760e では、スポーツ・ブースト機能は黒と赤のパドルを使用して作動させる。M スポーツ・パッケージのいずれかを装備した車両には、レザーを使用しないスポーツ・ステアリング・ホイールも注文可能であり、スポーツ・レザー・ステアリング・ホイールは BMW Individual メリノ・レザーと組み合わせて利用可能。

### **ソフトクローズ機構を備えた改良型自動ドアは、抜群の使いやすさを提供する。**

オプションの自動ドアは、改良された BMW 7 シリーズ向けにさらに最適化された。これは、実際に使い始めればすぐにわかる。ドアの開閉用電動ボタンは、各ドアハンドルの内側に、人間工学的に配慮された位置に配置されている。ボディと一体化した新デザインのハンドルに軽く触れるだけで作動する。手袋をはめている場合や、ドアハンドルが凍結している場合でも、ドアは確実に開閉する。各ドアの内側にも、対応するボタンが設けられている。ドアの操作には他にも、My BMW アプリ、音声コマンド、あるいは BMW Operating System X を搭載した BMW Panoramic iDrive の簡素化されたメニュー構造など、数多くのオプションが利用可能。BMW Digital Key Plus をお持ちのお客様は、対応するスマートフォンやスマートウォッチを操作ユニットとして使用できる。

実際、彼らは、車に近づいたときにどのドアが開くべきかなどを指定することができる。

新しいソフトクローズ機構は特に使い勝手が良く、ドアを滑らかに閉め、顧客が乗り降りするたびに新型 BMW 7 シリーズの豪華な雰囲気を実際立たせる。内蔵のサーボモードにより、わずかな力で手動でドアを開閉することができる。さらに、自動ドアはレーダーセンサーによって動作するようになった。これらはサイドスカート、フロントエンド、リアに目立たないよう組み込まれており、先代モデルよりも素早くドアの開閉が可能となった。また、センサーは障害物を高精度で検知するため、統合型衝突防止システムの効果がさらに高まっている。

レーダーセンサーは、ドア付近の障害物だけでなく、車に接近してくる他の道路利用者も検知し、衝突のリスクを大幅に低減する。

### **新型デジタルインテリアミラー。**

BMW 7 シリーズ セダンに新たに追加された機能として、オプションのデジタルインテリアミラーがある。これにより、ドライバーは状況や好みに応じて、従来の視覚的なミラーとデジタルミラー機能のいずれかを選択して使用できる。デジタルタイプは、パーセルシェルフにエレガントに組み込まれたカメラを使用し、ミラーに車後方の映像を表示する。この技術は、例えば BMW シアタースクリーンを使用する際に特に役立つ。デジタルインテリアミラーは 2026 年 11 月から提供され、それ以前に製造された新型 BMW 7 シリーズ セダンに対しても、後付けソリューションとして利用可能となる。

### **標準装備として採用された高品質な装備には、パノラミック・グラス・サンルーフ、4 ゾーン・オートマチック・クライメート・コントロール、そしてトラベル&コンフォート・システムが含まれる。**

BMW 7 シリーズ セダンは、顧客にこの車の品質を実感させてくれる、洗練された標準装備の数々によって、引き続き高い評価を得ている。その一つがパノラミック・グラス・サンルーフ。これはスチール製のフレームで囲まれた一枚の固定ガラスパネルで構成されており、後部座席にも光あふれる空間を創り出す。パノラミック・グラス・サンルーフのスライド式ヘッドライニングは電動式となる。

新型 BMW 7 シリーズ セダンの全グレードには、4 ゾーンオートマチック・クライメート・コントロールも標準装備されている。BMW i7 には、極めて高効率な新型ヒートポンプ技術を採用した、モデル専用の空調ユニット。運転席や助手席と同様に、後部座席の乗員も、後部コンパートメントに設けられた独立した操作パネルにより、自分のエリアの温度を好みに合わせて設定できる。さらに、追加の太陽光センサーが後部座席の温度調整を最適化する。また、この空調ユニットはシートヒーターや（装備されている場合は）シートベンチレーション機能も活用し、車内の温度を乗員の好みに合わせて調整する。

標準装備には「Travel & Comfort」モジュラー・アクセサリ・システムも含まれており、これによりユーザーはタブレット、スマートフォン、ハンガー、または折りたたみテーブルを、運転席および助手席の背面に簡単に取り付けることができる。

## ディスプレイとオペレーティングシステム、デジタルユーザー体験

新型 BMW 7 シリーズは、ラグジュアリーセダンの利点と最先端の BMW 「ノイエ・クラッセ」テクノロジーを融合させ、ドライバーと乗客の両方を中心とした、包括的なデジタルユーザー体験を実現している。

- **新機能：BMW オペレーティングシステム X を搭載した「BMW パノラミック iDrive」——BMW ならではの、ドライバーを徹底的に重視した設計。**
- **新機能：自己学習機能を備えたインテリジェント・ボイス・コントロール**
- **新機能：将来を見据えた車両機能を実現する、モダンでパワフルなソフトウェアおよびエレクトロニクス・アーキテクチャ。**
- **新機能：新型 BMW 7 シリーズ セダンのインテリアのハイライト——標準装備の BMW パッセンジャースクリーンが、助手席乗員のエンターテインメントを新たな次元へと引き上げる。**
- **新機能：比類なき BMW シアタースクリーンの大幅なアップグレード - 8K ストリーミング、ゲーム、ビデオ通話。**
- **新機能：最高クラスの車載エンターテインメント - 人気サードパーティ製アプリを含む、大幅に強化されたエンターテインメント機能。**
- **BMW Digital Premium：エンターテインメント、セキュリティ機能、拡張ナビゲーション機能を網羅した柔軟なトータルパッケージ。**
- **Apple CarPlay および Android Auto を標準装備し、スマートフォンをシームレスに連携させる。**
- **新機能：デジタル BMW M コンテンツ、機能、ディスプレイが、お馴染みの M の感覚を創出する。**
- **BMW Digital Key Plus：単なるキー以上の存在。**

<sup>1)</sup>2026 年後半までに、BMW Operating System 9 および X を搭載するすべての BMW モデルに順次導入される。提供範囲は、ドイツおよび米国市場を皮切りに、順次拡大される。

- **装備仕様の柔軟性 - 車両購入後も：ソフトウェア・アップデートと、BMW ConnectedDrive アップグレードの選択肢の拡充。**

**BMW オペレーティングシステム X を搭載した BMW パノラミック iDrive——BMW ならではの、ドライバー中心の設計。**

先見性あふれる BMW パノラミック iDrive システムは、BMW のディスプレイおよび操作コンセプトの最新

世代を体現している。ユーザーと車の相互作用を中核に据え、車両の操作、情報の表示、そしてドライバーの視界を再定義する。ディスプレイ、操作系、ソフトウェアをインテリジェントに連携させることで、直感的で使いやすく、人間工学に基づいた完全統合システムを構築し、ドライバーに常に適切な情報を提供する。

このシステムの核となるのが「BMW パノラミック・ビジョン」。これは新開発の技術を採用し、フロントガラスの下部エリア全体にコンテンツを投影する。ここに表示されるコンテンツは常に視認可能であり、ディスプレイおよび操作コンセプト全体の視覚的基盤を形成している。運転に関連する情報は、左側（左ハンドル車の場合）のドライバーの視界内に、前方の視界を妨げることなく、明確に構成された形で表示される。ディスプレイの中央および右側の領域に表示されるコンテンツは、パーソナライズが可能であり、すべての乗員が確認できる。

BMW パノラミック・ビジョンの上部に統合された BMW 3D ヘッドアップ・ディスプレイは、選択されたコンテンツをドライバーの視線上に直接、かつドライバー専用投影する。このディスプレイにより、例えばナビゲーションの指示やドライバー・アシスタンス・システムからの情報など、極めて正確な空間認識が可能となる。BMW 3D ヘッドアップ・ディスプレイと

BMW パノラミック・ビジョンに表示されるコンテンツは完璧に連携しており、両者が互いに補完し合うことで、一貫性があり、明確に構成された表示体験を生み出す。

フリーカットデザインの 17.9 インチ・セントラルディスプレイは、BMW パノラミック iDrive に組み込まれた、もう一つの重要な操作要素となる。

洗練されたマトリックス・バックライト技術を採用しており、あらゆる光環境下で鮮明なグラフィックと優れた視認性を実現する。独自のフリーカット・デザインにより、人間工学に基づいた最適な配置が可能となり、QuickSelect を搭載した改良されたメニュー構造と相まって、便利でシンプルかつ直感的なタッチ操作を保証する。

セントラル・ディスプレイには、ドラッグ&ドロップで BMW パノラミック・ビジョンへ移動できるウィジェットを含むメニューがある。この方法で最大 6 つのウィジェットを自由に配置でき、頻繁に使用する機能へ素早くアクセスできる。さらに、新たに開発されたマルチファンクション・ステアリング・ホイールを使用して、

新たに開発されたマルチファンクション・ステアリングホイールを使用して、BMW パノラミック・ビジョンに表示できる。

このマルチファンクション・ステアリングホイールは「シャイ・テック」の哲学を採用しており、必要な時のみ操作部が点灯する仕組みとなっている。運転支援や駐車機能の操作部は左側に配置され、電話やメディアプレーヤーなどのインフォテインメント機能の操作部は右側にある。これらの機能は、ハプティックフィードバックを備えた専用コントロールパネルを介して操作可能であり、ドライバーは視線を道路から外すことなく、主要な機能を安全かつ正確に制御できる。

BMW パノラミック iDrive は、BMW Operating System X ソフトウェアを基盤としている。これはディスプレイおよびオペレーティングシステムのためのインテリジェントなプラットフォームとして機能し、ソフトウェア定義車両 (SDV) アプローチを明確に念頭に置いて設計されている。このアーキテクチャは Android Open Source Project (AOSP) に基づいており、優れたアップデートおよびアップグレード機能を提供する。

これにより、システムは長期間にわたり最新の状態を維持し、新機能やデジタルサービスの継続的な追加が可能となる。BMW Operating System X は、すべてのインタラクション要素を綿密に管理し、その場の状況に適した文脈に応じた方法で、一貫して情報を提示することを保証する。

このシステムの主な特徴の一つは、その幅広いカスタマイズ性だ。コンテンツ、ウィジェット、表示は個別に設定可能であり、個人の好みに合わせて調整できる。ユーザーは色、表示スタイル、背景画像を選択し、自分だけのデジタル体験を作り上げることができる。また、「My BMW」アプリを使用して、中央ディスプレイの背景画像に自分の写真を設定することも可能。すべてのディスプレイにおけるユーザーインターフェースのデザインカラーは、選択した画像に合わせて自動的に調整される。「パーソナルモード」では、ドライバーはユーザーインターフェースのデザインを自由にカスタマイズするための豊富なオプションを利用でき、ディスプレイ、操作、車両関連の設定をさらに細かく調整できる。さらに、「SPORT」、「EFFICIENT」、「SILENT」といった「My Modes」が追加され、顧客が利用できる個人設定の幅が広がっている。

BMW ID は、BMW Operating System X によるカスタマイズ可能なドライビング体験への扉を開く。最大7人のユーザーがそれぞれの BMW ID でサインインでき、個別の設定であらゆるドライブを存分に楽しむことができる。出発前には、顧客の名前で迎えるメッセージが——希望すれば個人のプロフィール写真と共に——セントラル・ディスプレイに自動的に表示される。

BMW Panoramic Vision、BMW 3D ヘッドアップディスプレイ、セントラルディスプレイ、そしてマルチファンクションステアリングホイールが相互に連携し——これらすべてを制御する一貫性があり、明確に構成された表示を実現し、操作コンセプト。物理的な操作系とデジタル操作系が融合し、ドライバーの視線と操作性を重視して設計された、シームレスなユーザー体験を実現する。その過程で、「ハンドルに手を置き、視線は道路に」という原則が再解釈され、より高度な技術レベルへと昇華されている。

BMW パノラミック iDrive は拡張性を考慮して設計されており、その基盤となるシステムアーキテクチャにより、将来のデジタルサービス、追加のディスプレイ形式、新機能の柔軟な統合が可能だ。

### **Amazon の Alexa+ AI テクノロジーによって強化された、自己学習型 BMW インテリジェント・パーソナル・アシスタントによるインテリジェントな音声制御。**

BMW パノラミック iDrive のマルチモーダル操作ロジックは、タッチ、ハプティック、音声ベースのインタラクションを組み合わせている。ここで重要な役割を果たすのが、強化された BMW インテリジェント・パーソナル・アシスタントであり、これにより、特定の音声コマンドを必要とせず、自然言語を用いて多数の車両機能、ナビゲーションの目的地入力、メディアコンテンツを制御できる。

この自己学習型アシスタントは、車両をインテリジェントなデジタルコンパニオンへと変える。音声アシスタントは、いつものように「Hey BMW」と声をかけるか、ステアリングホイールの右側コントロールパネルにあるボタンを押すことで呼び出すことができる。BMW インテリジェント・パーソナル・アシスタントは、ウィンドウ、エアコン、シートの快適性、電話、車内エンターテインメントなどの制御を支援する。また、多数の機能メニューを呼び出したり、特定のアプリを操作したりするのもにも使用できる。

BMW インテリジェント・パーソナル・アシスタントに Amazon の Alexa+ AI 技術を追加することで、機能の幅がさらに広がる。Amazon Alexa+の BMW インテリジェント・パーソナル・アシスタントへの統合は、

顧客への付加価値向上に焦点を当てた技術的な飛躍を意味する。採用されている AI 技術は、言語を「理解」し、独自の応答を生成できる生成 AI の一種である大規模言語モデル (LLM) だ。これにより、対話型の音声操作がより充実し、直感的でインテリジェントなやり取り、外部ナレッジベースやクラウドベースのサービス、メディアコンテンツへのアクセス、さらには車両機能の制御が可能になる。BMW インテリジェント・パーソナル・アシスタントを Amazon アカウントと連携させることで、ユーザーは音楽の検索やストリーミング、最新ニュースの視聴、その他幅広いコンテンツへのアクセスを簡単に行えるようになる。提供はドイツおよび米国市場を皮切りに、順次拡大される予定だ。

<sup>12</sup>遅くとも 2026 年後半からは、BMW Operating System 9 および X を搭載するすべての BMW モデルに順次導入される

ドライバーの要望に応じて、BMW インテリジェント・パーソナル・アシスタントは、利用パターンやその他の要因に基づいた先を見越した提案を行うことも可能だ。

BMW Operating System X は、走行状況、環境分析、車内センサー情報など、より多くの状況を考慮に入れることで、このインテリジェントな機能をさらに拡張する。

### **新型 BMW 7 シリーズ セダンのインテリアのハイライト:標準装備の BMW パッセンジャー・スクリーンは、助手席乗員のエンターテインメント体験を新たな次元へと引き上げる。**

新型 BMW 7 シリーズ セダンで初採用され、標準装備となる BMW パッセンジャースクリーンは、BMW ブランドとしては初となる。セントラル・ディスプレイと相まって、新型 BMW 7 シリーズ セダンのディスプレイおよび操作哲学を特徴づける要素となっている。

14.6 インチのこのスクリーンは、セントラル・ディスプレイと同等の洗練されたテクノロジーを備えている。

BMW パッセンジャースクリーンは、走行中に助手席の乗客にエンターテインメントを提供するために特別に設計されたものだ。フル HD ディスプレイにより、簡単で直感的なマルチタッチ操作が可能だ。フリーカットデザインを採用したこのスクリーンは、セントラルディスプレイとシームレスに一体化しているように見える。これにより、助手席の乗客は BMW の多彩なエンターテインメントオプションをすべて利用できるようになる。このパッケージには、動画ストリーミングやテレビ番組、ゲーム、音楽などが含まれている。車載カメラは、移動中のビデオ会議に使用される。BMW ID でのログインは不要だ。BMW Digital Premium には必要なデータ通信量が含まれており、車内のすべてのディスプレイで利用可能だ。BMW Digital Premium が搭載されていない場合、Wi-Fi ホットスポットまたは Wi-Fi 接続 (テザリング) を介して車に接続された個人のモバイル端末のモバイルデータが使用される。統合されたシールド機能により、ドライバーは常に運転に集中できる。車内カメラは走行中のドライバーの注意散漫を検知し、自動的にディスプレイの輝度を下げる。

車内に助手席の乗客がない場合、BMW パッセンジャースクリーンは自動的に縮小モードに切り替わり、車内の他のディスプレイと調和して溶け込む。この際、ディスプレイの背景は、アクティブな「My Mode」とアンビエント照明に合わせて調整される。

### **比類なき BMW シアタースクリーンの大幅なアップグレード - 8K ストリーミング、ゲーム、ビデオ通話。**

BMW 7 シリーズ セダンのアップデートには、BMW シアタースクリーンの大幅なアップグレードも含まれている。31.3 インチの 8K タッチスクリーンの画面全体とそのすべての機能が、タッチ操作で操作可能になった。また、後席の乗員も BMW のビデオストリーミングプラットフォームにアクセスし、その他多数の人気

エンターテインメント・情報アプリを利用できるようになった。

アプリは BMW ConnectedDrive Store を通じて簡単に統合できる。また、AirConsole を介して幅広いビデオゲームも利用可能だ。

アプリをダウンロードして利用するには、「BMW Digital Premium」による接続、または Wi-Fi ネットワークもしくはスマートフォンのモバイルホットスポットへの接続が必要だ。ヘッドホンやゲームコントローラーなどのデバイスは Bluetooth 経由でペアリングできる。また、センターコンソールには HDMI ポートが備わっており、テレビ用ストリーミングスティックやノートパソコンなどを接続できる。

BMW シアタースクリーンには新たに内蔵カメラが搭載されており、後部座席からでも簡単にビデオ通話ができる。

乗客は、自分の好みに合わせて BMW シアタースクリーンの位置を簡単に調整できる。両方の後部ドアに配置された BMW タッチコマンド・デジタルコントロールモジュールを使えば、スクリーンを前後に動かすだけでなく、視野角も簡単に調整できる。

### **将来を見据えた車両機能を実現する、先進的で強力なソフトウェアおよびエレクトロニクス・アーキテクチャ。**

新型 BMW 7 シリーズは、「ソフトウェア定義車両 (SDV)」の基盤として「ノイエ・クラッセ」向けに開発された、全く新しい E/E アーキテクチャを採用している。これにより、車両は全体としてよりインテリジェントかつ効率的になり、機能性も向上した。集中化された高性能コンピュータ群は、現行モデル世代に比べて合計で 20 倍の処理能力を誇る。これは、インタラクティブな AI 機能を含む、今後のソフトウェアおよび機能アップデートに対応できることを意味する。ゾーン別ワイヤーハーネスアーキテクチャにより、ハーネスの重量を約 30% 削減すると同時に、配線長を約 600 メートル短縮した。配線をより短く、より細くできるだけでなく、インテリジェントな電力分配を行うデジタルスマート eFuse を採用しており、車両全体のエネルギー効率向上に決定的な貢献を果たしている。

新しいエレクトロニクス・アーキテクチャは、より高度なソフトウェア・アーキテクチャを支える基盤となっており、これにより将来のすべての BMW モデルはソフトウェア・アップデートを通じて常に最新の状態を維持できる。ソフトウェア定義車両における豊富なデジタル機能を考慮すると、機能を常に一から開発し直すのではなく、安定したソフトウェア・プラットフォーム上で継続的に改良できることが極めて重要だ。それが、ノイエ・クラッセを皮切りにした新型 BMW モデル世代で我々が達成したことだ。

### **最高クラスの子車載エンターテインメント - 人気のあるサードパーティ製アプリを含む、大幅に強化されたエンターテインメント機能。**

BMW Operating System X は、顧客にこれまで以上に豊富な車内エンターテインメントの選択肢を提供する。顧客は、豊富なアプリを活用する利便性を選択できる。

動画およびゲームのコンテンツ（データ通信量無制限）は、

BMW デジタルプレミアムパッケージに含まれている。あるいは、スマートフォンをモバイルホットスポットとして使用したり、Wi-Fi ネットワークに接続したりして、独自の接続環境を用意することも可能だ。必要な接続は 1 台につき 1 回のみで、これによりセントラルディスプレイ、BMW パッセンジャースクリーン、BMW シアタースクリーンでエンターテインメントコンテンツを楽しむことができる。

また、顧客は「Video」アプリ（TiVo<sup>®</sup> 提供）にアクセスでき、ニュースやライブ/オンデマンドのストリーミングプラットフォームなど、絶えず拡大するコンテンツを提供する「Video」アプリにアクセスできる。動画は、車両が停止している際に、セントラルディスプレイ、BMW パッセンジャースクリーン、BMW シアタースクリーンでストリーミング再生可能だ。この機能は、走行中の「BMW Passenger Screen」および「BMW Theatre Screen」。既存のアカウントでログインすれば、自宅で中断した箇所からそのまま映画やドラマの視聴を再開できる。Video アプリは 2026 年中に、BMW ConnectedDrive を導入しているすべての市場で利用可能になる予定だ。

BMW Operating System X が提供する AirConsole アプリは、すべての乗客に素晴らしいエンターテインメントを提供する。UNO<sup>®</sup>Car Party!など、車内でのゲーム体験に合わせて特別にアレンジされた世界的に有名な名作が楽しめる。マテル社の『Hot Wheels: Xtreme Overdrive<sup>®</sup>』は、豊富な AirConsole ゲームライブラリにおける新たな目玉タイトルだ。AirConsole では、スマートフォンをコントローラーとして使用できるため、すべての乗客が協力したり対戦したりして遊ぶことができる。

顧客は、BMW ConnectedDrive Store から車内エンターテインメント用の追加ゲームやアプリを入手できる。また、一部のゲームは、一般的なゲーム機用の Bluetooth コントローラーでも操作可能になった。BMW ConnectedDrive Store では、すでに世界中で合計 60 以上のアプリが利用可能だ。カテゴリーには音楽・オーディオ、エンターテインメント、ゲーム、ニュース、旅行・ローカル情報などが含まれており、今後も選択肢は増え続ける。

### **BMW Digital Premium : エンターテインメント、セキュリティ機能、拡張ナビゲーション機能を網羅した柔軟なトータルパッケージ。**

BMW Digital Premium パッケージには、顧客により大きな安心感を与える数々の便利な機能で構成される「セキュリティアシスタント」が含まれている。例えば、盗難未遂や駐車時の接触事故が発生すると、「My BMW」アプリにプッシュ通知が送信される。また、事故が発生した場合には、BMW ドライブレコーダーが直ちに車内で事故の外部映像を再生し、この映像はスマートフォンへエクスポート可能だ。盗難防止および駐車時の衝突レコーダーも自動録画を行う。オプションの「リモート・インサイド」および「リモート 3D ビュー」機能はにより、顧客は「My BMW」アプリを使って車内を覗き見たり、車両のすぐ周辺を確認したりすることも可能だ。

さらに、「BMW Digital Premium」は、BMW Maps 内のナビゲーション機能の幅を広げる。追加のリアルタイム交通情報、衛星画像、3D 建物モデル、そして先を見越したアドバイスにより、正確かつ先を見据えたルート計画が可能になる。駐車場や周辺スポットに関する情報も、より詳細に表示される。車線を正確かつリアルに可視化することで、都市部の複雑な道路状況においても、ナビゲーションの案内がスムーズになる。

エンターテインメント機能に必要なデータは BMW Digital Premium に含まれているため、顧客がスマートフォンをホットスポットとして使用したり、Wi-Fi ネットワークに接続したりしてデータ通信を確保する必要はない。この接続は、セントラル・ディスプレイ、BMW パッセンジャー・スクリーン、BMW シアター・スクリーンで利用できる。さらに、5G 対応の車両テレマティクス・システムにより、あらゆる状況で最高のストリーミング速度が確保される

。BMW Digital Premium パッケージは、必要に応じてダウンロード可能であり、継続的な開発が想定されて

いる。新型 BMW 7 シリーズでは、BMW Digital Premium の機能が 2 年間無料で提供される。この期間が終了すると、BMW ConnectedDrive Store を通じて、パッケージをさらに 2 年間無料で 1 回延長できる。それ以降は、有料でパッケージを継続することが可能だ。新しい機能やサービスが随時追加され、常に最新の状態であり、接続性を保ち、将来にも対応したデジタルユーザー体験を提供する。

### **Apple CarPlay および Android Auto を標準装備し、スマートフォンを簡単に連携できる。**

Apple CarPlay および Android Auto のワイヤレス利用も標準装備されている。現在のモードでアクティブなメディアタイトルやルート案内に関する利用可能なメタデータは、BMW パノラミック・ビジョンおよび BMW 3D ヘッドアップ・ディスプレイに、インテリジェントな形式でドライバーに表示される。クイックセレクト・ウィジェットは引き続きセントラル・ディスプレイのホーム画面で利用可能であり、スマートフォンから投影されるコンテンツは、ディスプレイの形状に合わせてそれらと並べて表示される。リンクされると、

Apple CarPlay / Android Auto のアイコンがメニューバーに追加され、投影されたコンテンツをフルスクリーンモードで表示できるようになる。

### **デジタル BMW M のコンテンツ、機能、表示は、お馴染みの M の感覚を生み出す。**

BMW Digital Premium には、M 専用の車載アプリが多数用意されている。これらを通じて、車両の技術信号やドライビングダイナミクスデータに加え、追加のメディアコンテンツにアクセスできる。「M Cockpit」アプリを使えば、リアルタイムデータを用いて個別にカスタマイズしたダッシュボードを作成でき、「M Drag Meter」は車両の加速データを表示する。また、「M Channel」では、モータースポーツの動画に加え、BMW M の世界に関する独占的な情報を提供している。

新型 BMW 7 シリーズ セダンのラインナップにおいて、M SPORT および M SPORT PLUS の「My Modes」は、特別に調整されたシフト設定や速度などを適用することで、M のバッジにふさわしいドライビング特性を実現し、極めてダイナミックなドライビング体験を提供する。BMW M カラーや、BMW パノラミック・ビジョンのグラフィックに使用されるフォントや形状など、インテリアに個別にデザインされた BMW M のコンテンツや表示は、車内にも本物の M の雰囲気醸し出す。

BMW M パフォーマンス・モデルは、ドライビング体験に特別なハイライトを加える専用の「My Moments」でも際立っている。その一例として、「My Moments SPORT BOOST」や「LAUNCH CONTROL」があり、発進時や追い越し時にさらなるダイナミズムをもたらす。同時に、BMW パノラミックビジョンには特別なグラフィックが表示され、その特定の「My Moments」をさらに強調する。

### **BMW デジタルキー・プラス：単なる鍵以上の存在。**

BMW デジタルキー プラスは、車両へのアクセス手段として主流になりつつある。ここでは、主要メーカーのスマートフォンやスマートウォッチを、車両のキーとして簡単に設定できる。超広帯域 (UWB) および Bluetooth 技術を用いることで、スマートフォンと車両が至近距離で通信できるようになる。UWB 技術により、ユーザーの位置を極めて正確に特定できると同時に、最高レベルの車両アクセスセキュリティも確保される (Car Connectivity Consortium の規格に準拠して認証済み)。顧客はメッセージングアプリを使って、デジタルキーを他者と簡単かつ安全に共有できるほか、個別の役割や権限を設定することも可能だ。また、顧客のスマートフォンウォレットを通じて、テールゲートの遠隔操作などの追加機能を利用することもできる。

顧客が BMW Digital Key Plus を持って車に近づくと、車外から車内へと移動する際に視覚効果で演出するウェルカム・シーケンスが始まる。このウェルカム・シーケンスは、車の仕様に応じて異なる。車に近づいてから発進するまで、ドライバーはスマートフォンをずっとポケットに入れたままにしておく。

BMW Digital Key Plus に加え、ドライバーは高品質な物理キーを使用して、いつでも車両の施錠・解錠を行うことができる。

**車両購入後も柔軟な装備仕様：ソフトウェア・アップデートと、より幅広い「BMW ConnectedDrive アップグレード」の選択肢。**

「BMW ConnectedDrive アップグレード」により、お客様は車両購入後も、さらにデジタル製品やサービスを追加することができる。ほとんどの多くの BMW ConnectedDrive アップグレードでは、無料トライアル期間が用意されている。製品によっては、これらの機能を車両の全期間、1 年間、または 1 ヶ月間利用できるよう予約できる。これらは、インターネットブラウザ経由、「My BMW」アプリ、あるいは車内から直接利用可能だ。

BMW ConnectedDrive Store は、サードパーティ製アプリの入手、BMW ConnectedDrive アップグレードのダウンロード、または既存のダウンロードの管理を希望する顧客にとっての主要な窓口となる。

また、無線によるソフトウェア・アップデートにより、新型 BMW 7 シリーズ セダンは常に最新の状態に保たれる。BMW Operating System X では、アップデート機能とプロセスが綿密に改良され、簡素化されている。希望すれば、アップデートを自動的に実行することも可能となる。

## 駆動システム

先代モデルと同様、新型 BMW 7 シリーズ セダンは顧客に幅広いドライブシステムを提供する。車両アーキテクチャのテクノロジーオープンな設計により、最新世代の高効率な BMW グループの EfficientDynamics 内燃機関には、48V マイルドハイブリッド技術、パワフルかつ効率的なプラグインハイブリッドシステム、そして完全電動パワートレインを備えている。すべてのモデルバリエーションは、BMW グループのディンゴルフィンク工場の単一の組立ラインで製造される。

BMW i7 の 3 つの全電気モデルは、ドイツでの発売当初からラインナップされ、第 6 世代の BMW eDrive テクノロジー (Gen6) の新型円筒形セルの採用などにより、航続距離が大幅に延長される。ガソリンエンジンの BMW 740 xDrive も、欧州で初めて販売される。BMW 740d xDrive のディーゼルモデルと 2 つのプラグインハイブリッドモデルは、2026 年 11 月に発売される予定だ。

計 3 つの BMW M パフォーマンス・モデルがラインナップされ、同ブランドが誇る「Sheer Driving Pleasure (駆けぬける喜び)」への強いこだわりを示している。まず BMW i7 M70 xDrive が発売され、続いて 11 月には BMW M760e が発売される。さらに 2027 年には、従来の V8 エンジンを搭載した 3 つ目の BMW M パフォーマンス・モデルがラインナップに加わる予定だ。

- **新機能: 新型高電圧バッテリーを搭載した BMW i7 - 電気走行距離は 700 キロメートル (435 マイル、WLTP) を超える。これは、第 6 世代 BMW eDrive 円筒形セルにより、利用可能エネルギー容量が最大 112.5kWh に増加したことによるものである。**
- **新型 BMW i7 : 出力バリエーションが豊富な 3 つのフル電動モデル。**
- **電気励磁式同期モーターの原理に基づく電気モーター。**
- **新型 BMW i7 の充電体験 : 使いやすく、スマートで効率的、そして充電速度が大幅に向上している。**
- **充電に最適化されたルートプランニングと予測熱管理により、DC 充電を高速化する。**
- **BMW Charging は、世界でも有数の高密度な充電ネットワークと魅力的な価格を提供する。**
- **すべての BMW ドライバーは、最小限の充電コストの恩恵を受けることができる。**
- **アダプティブ・リカバリーは信号機を考慮し、自動的に車を停止させることができる。**
- **新機能 : BMW i7 の自動充電プロファイル設定により、ドライバーの負担が軽減される。**
- **新機能 : 直列 6 気筒ガソリンエンジンを搭載した BMW 740 xDrive がドイツで初公開された。**
- **BMW 740d xDrive は、卓越した落ち着きと安心感を持つ魅力的なディーゼルモデルだ。**
- **48V マイルドハイブリッドシステム : 8 速ステップトロニック・スポーツ・トランスミッションにクラ**

ンクシャフト搭載のスタータージェネレーターを装備。

- 改良された内燃エンジンと、制限のない荷室容量を備えた2つのプラグインハイブリッドモデル。

**新型高電圧バッテリーを搭載した BMW i7：電気走行距離は700 キロメートル（435 マイル、WLTP）超の電気走行距離を実現。これは、第6世代 BMW eDrive 円筒形セルにより、利用可能エネルギー容量が最大 112.5kWh に増加したことによるものである。**

新型フル電動 BMW i7 の高電圧バッテリーには、BMW eDrive テクノロジーの第6世代に属する新型円筒形セルが採用されている。このセルは、「ノイエ・クラス」の第一弾となる BMW iX3 で初登場したものだ。従来の第5世代角形セルと比較して、円筒形セルの体積エネルギー密度は20%向上している。駆動システムの効率向上と相まって、これらは航続距離の延長と急速充電を可能にする重要な要素となっている。その結果、新型 BMW i7 50 xDrive および新型 BMW i7 60 xDrive は、顧客に対し700 キロメートル（435 マイル、WLTP）を超える航続距離を提供できるようになり、約100 キロメートル（62 マイル）の増加となった。

この改良型ラグジュアリーセダンには、従来と同じ外形寸法を持ちながら、モジュール式配置に統合された第6世代円筒形セル。この独自のソリューションは、BMW グループの全電気自動車ラインナップにおいて唯一無二のものだ。

高電圧バッテリーの実用エネルギー容量は10%以上増加し、最大112.5kWh（正味）となった。

パワーエレクトロニクス用シリコンカーバイド半導体部品（SiC インバーター）の採用、摩擦を最適化したホイールベアリング、A+ラベルのタイヤなど、様々な BMW EfficientDynamics 対策により、車両全体の効率も最大7%向上した。

**新型 BMW i7：出力バリエーションが豊富な3つのフル電気モデル。**

新型 BMW 7 シリーズ セダンは、発売当初から3つのフル電動モデルと幅広い出力バリエーションで提供される。これは、最上位モデルにおいても、完全電動モビリティが重要な役割を果たすことを示している。BMW のモデルラインナップ。BMW i7 は、このシリーズが持つ先進的なプレミアム性を際立った魅力で体現し、これまで以上にスムーズな走りを実現した。例えば、より滑らかなスロットルレスポンスにより、このラグジュアリーセダンの操作性がさらに繊細になった。BMW i7 は、妥協のない駆けぬげる喜び、乗員の快適性、そして豪華な雰囲気を提供し、かつ地域への排出ガスをゼロに抑えている。3つの BMW i7 バリエーションのいずれも、2基の防音構造を施した電気モーターを搭載している。これらは、標準装備の全輪駆動システムと相まって、圧倒的な瞬発力と実質的に無音のパワー供給に加え、卓越したトラクションと直進安定性を実現する。BMW HypersonX による新たな走行音、サウンドエフェクト、音響信号は、BMW i7 50 xDrive および BMW i7 60 xDrive における包括的な体験にさらなる深みを加える。一方、BMW i7 M70 xDrive は、M 専用のサウンドデザインによって際立った存在感を放っている。

純電気式 BMW 7 シリーズ・セダンの世界への入り口となるのが、**新型 BMW i7 50 xDrive** だ。このモデルでは、2基のドライブユニットが組み合わさり、最大システム出力 335 kW/455 hp、総トルク 660 Nm（487 lb-ft）を発揮する。これらにより、新型 BMW i7 50 xDrive は0 から 100 km/h（62 mph）まで5.5秒で加速し、最高速度 210 km/h（130 mph）に達する。

現行の BMW eDrive テクノロジーの卓越した効率性により、複合電気消費量は 100 km あたり 21.8~17.9 kWh となる。

WLTP 基準で 100 キロメートルだ。これにより、BMW i7 50 xDrive は、同じく WLTP サイクルにおいて最大 708 キロメートル (440 マイル) の航続距離を実現する。新型 BMW 円筒形セルのエネルギー容量増加とエネルギー密度の向上、および駆動システムの効率改善により、これは前モデルである後輪駆動の BMW i7 eDrive50 の航続距離よりも約 100 キロメートル (62 マイル) 長い。

この全電気自動車 3 車種の中で中間の出力バリエーションとなるのが **BMW i7 60 xDrive** であり、総合最大出力は 400 kW/544 hp、最大システムトルクは 745 Nm (549 lb-ft) だ。これにより、BMW i7 60 xDrive は静止状態から 100 km/h (62 mph) まで 4.8 秒で加速し、電子制御による最高速度は 240 km/h (149 mph) に達する。WLTP サイクルにおける複合電力は 100 キロメートルあたり 21.9~18.2 kWh となり、最大航続距離は最大 707 キロメートル (439 マイル) に達する。

BMW i7 シリーズの最上位モデルは、スポーティな **BMW i7 M70 xDrive**。

この BMW M パフォーマンス・モデルでは、2 基の電気モーターが合計で最大出力 500 kW/680 hp を発揮する。システム最大トルクは驚異的な SPORT モードでは 1,015 Nm (748 lb-ft) に達し、M 専用効果を備えたローンチコントロールまたはスポーツ・ブースト機能が作動すると、さらに 1,100 Nm (811 lb-ft) まで増加する。これにより、BMW i7 M70 xDrive は静止状態から 100 km/h (62 mph) まで 3.8 秒で加速する。1 フィート・ロールアウト法<sup>13</sup>を用いて計測した場合、100 km/h (62 mph) までの加速はわずか 3.5 秒で、電子制御による最高速度は 250 km/h (155 mph) だ。WLTP サイクルにおける複合電気消費量は 100 キロメートルあたり 22.9~19.7 kWh で 100 キロメートルあたり 22.9~19.7kWh で、最大航続距離は 650 キロメートル (404 マイル) に達する。

### **電気励磁同期モーターの原理に基づく電気モーター。**

最新の Gen6 円筒形セルを採用した新型高電圧バッテリーや刷新された充電技術に加え、BMW i7 に搭載された改良版 BMW eDrive テクノロジーには、前輪軸と後輪軸に配置された高度に統合されたドライブユニットも含まれる。これらは SiC インバーターの統合により最適化されており、電気モーター、パワーエレクトロニクス、トランスミッションを単一の極めてコンパクトな筐体に集約している。

BMW i7 の電気モーターは、電気励磁同期モーターの原理に基づいて動作する。これは、固定された永久磁石ではなく、精密に制御可能な電流供給によってローターを回転させる仕組みだ。これにより、ローターの製造において、磁気部品に不可欠な希土類金属の使用を完全に回避できる。

<sup>13</sup> ロールアウトを差し引いた値：この代替測定法では、光電バリアを通過した後のみ時間測定が開始される。測定において考慮されない距離（「ロールアウト」）は 1 フィート=30.48cm である。

### **新型 BMW i7 の充電体験：使いやすく、スマートで効率的、そして充電速度が大幅に向上した。**

同セグメントの他モデルを凌ぐ最大 630 アンペアの電流容量と、最大充電速度が 195kW から 250kW へと大幅に向上したことで、新型 BMW i7 は高出力充電ステーションにおいて、わずか 28 分で 10% から 80% まで充電できるようになった。

高出力充電ステーションでの急速充電時、BMW i7 50 xDrive および BMW i7 60 xDrive の各モデルは、わずか 10 分で航続距離を最大 205 キロメートル (127 マイル) 延長するのに十分なエネルギーを補給できる。一

方、BMW i7 M70 xDrive は、急速充電ステーションでわずか 10 分間で最大 185 キロメートル (115 マイル) 分の電力を補給できる。

AC 電源に接続した場合、BMW i7 は標準で最大 22 kW のため、空の状態から満充電になるまで 6 時間かかる。11 kW の充電速度の場合、充電時間は 12 時間だ。

### **より速い DC 充電を実現する、充電最適化ルートプランニングと予測熱管理。**

BMW i7 には、移動中の便利で迅速な充電を実現する多くの革新的な機能が搭載されている。例えば、個々の条件に合わせて計画された充電最適化ルートや、より速い DC 充電のための自動バッテリー準備、あるいは充電ステーションでの自動認証を可能にする「Plug & Charge」によるユーザーフレンドリーな充電ストップなどだ。

BMW i7 は、複数の充電スポットごとにカスタマイズされた充電設定を保存できる。車両が同じ充電スポットに戻った場合、前回の設定が自動的に適用される。

BMW Maps ナビゲーションシステムは、入力された目的地が現在の航続距離を超えている場合、充電スポットを含む充電に最適化されたルートを算出する。ドライバーは、充電ポイントおよび最終目的地に到着する際の希望最低充電レベルを設定し、優先する充電ステーション運営者を指定できる。AI の助けを借りて、システムは過去の充電履歴をもとに、例えば現実的に期待できる充電出力、故障の発生率、個々の充電ステーションの正確な位置情報などを把握し、最適な充電ステーションをルート計画に組み込む。顧客に完全な透明性を提供するため、現在の空き状況、充電ポイントの数、コネクタの種類に関する情報も提供される。個別に保存された充電料金に基づいて、充電停止時の推定費用が事前に表示される。走行中、車両と「My BMW App」は最新情報を同期するため、乗客はルートを確認し、必要に応じて調整することができる。利用可能な充電ステーション周辺の飲食店、遊び場、トイレ、ショッピング施設も表示される。

バッテリー準備機能は、DC 充電ステーションでの充電前に高電圧バッテリーを最適な温度に調整し、これにより車両を接続した直後から充電速度が向上し、充電時間を短縮する。BMW Maps を使用して DC 充電ステーションへナビゲートする際、BMW i7 は自動的にバッテリーを必要な温度に調整する。また、顧客はセントラル・ディスプレイまたは My BMW アプリを通じて、この機能を手動で起動することも可能だ。バッテリーの現在の温度状況やバッテリー準備の残り時間は、BMW i7 の「車両ステータス」画面、または My BMW アプリからいつでも確認できる。

車室の統合冷暖房回路や駆動システムの冷暖房に用いられるヒートポンプ技術と、高電圧バッテリーの賢い組み合わせにより、さまざまな走行状況や、-20~+30℃という幅広い外気温において、極めて効率的なアイドリング運転が実現される。例えば、

は、車内と高電圧バッテリーを暖めるために効果的に利用される。つまり、ヒートポンプ機能と、必要に応じて中央補助ヒーターを使用することで、車内と高電圧バッテリーを同時に加熱することが可能だ。

### **BMW Charging は、世界でも有数の高密度な充電ネットワークと魅力的な価格を提供している。**

総じて、BMW Charging は世界で最も広範かつ高密度な充電ネットワークの一つを提供しており、ドイツ国内だけで 18 万カ所以上、欧州全体で 100 万カ所以上、そして 280 万カ所を超える。さらに、BMW Destination Charging は、ホテル、ゴルフクラブ、レストランなど、世界中のプレミアムパートナー施設に充電設備を提

供している。BMW Charging の顧客は、提供されている料金プランのいずれかを選択することで、欧州の公共充電ステーションを割引価格で利用できる。BMW i7 の充電については、選定されたパートナー施設および IONITY の急速充電ステーションで、魅力的な固定料金が適用される。

### **すべての BMW ドライバーは、充電コストの最小化というメリットを享受できる。**

BMW グループは、電動化された BMW 7 シリーズをスマートに充電しつつ、自宅での充電コストを削減したいと考えるすべてのお客様に向けたソリューションを提供している。お客様は、予定された出発時刻や希望する充電レベルを考慮し、電気料金が最も安くなる時間帯に車が自動的に充電される場所を選択できる。この機能は、駆動システム、BMW/MINI Wallbox Plus、マルチファンクションチャージャー (MFC)、またはその他の AC 充電ユニットと組み合わせて利用可能だ。

お客様に必要なのは、「コスト最適化充電」に対応した充電制御機能付きの適切な電気料金プランだけだ。このような料金プランは、多くの電力会社で提供されている。最新の概要については、[BMW の FAQ を参照](#)のこと。

### **アダプティブ・リカバリーは信号機を検知し、自動的に車両を停止させることができる。**

BMW i7 は、前方の車両や信号機に応じて自動的に減速し、停止まで持つていくことができる、洗練されたアダプティブ・リカバリー制御システムを備えている。これにより、ほぼ停止状態に近い速度での走行快適性が大幅に向上する。アダプティブ・リカバリーは、ナビゲーションシステムや運転支援システムのセンサーから得たデータを用いて検知された交通状況に応じて、惰行時や制動時のブレーキエネルギー回生強度を自動的に最適化する。例えば交差点に接近する際、ルートガイダンスが有効でなくても回生レベルを高めることが可能であり、減速効果を活用しながら高電圧バッテリーへエネルギーを戻すことができる。

一方、開けた道路では、惰行機能が作動し、ドライバーがアクセルを離すと、駆動力を一切かけずに「フリーホイール」状態になる。

アダプティブ回生に加え、ドライバーはあらゆる走行状況において、ブレーキ回生レベルを「高」「中」「低」から選択できる。ドライブモード「B」では自動的に最高レベルの回生が作動し、これによって特徴的なワンペダル走行感覚も得られる。航続距離表示は、運転スタイルが高電圧バッテリーの充電レベルに与える影響を明確に示している。

### **BMW i7 では、自動充電プロファイル設定により、ドライバーの負担が軽減される。**

BMW i7 は、複数の充電スポットごとにカスタマイズされた充電設定を保存することができる。これらの設定は、次回その保存済みの充電スポットに戻った際に自動的に提案される。さらに、ナビゲーションシステムのルート案内機能を起動していない状態で高出力充電ステーションに近づいた際、高電圧バッテリーの予熱を手動で開始することも可能だ。新型 BMW i7 に搭載された改良された充電ソフトウェアに加え、クラウドベースの BMW Maps ナビゲーションシステムも長距離移動において大いに役立つ。目的地を入力するとすぐに、アルゴリズムが、車両の現在の航続距離では目的地に到達できない場合、充電を最適化したルートを瞬時に算出する。

### **直列 6 気筒ガソリンエンジンを搭載した BMW 740 xDrive がドイツで初公開。**

現行の BMW 7 シリーズ全ラインナップの全面刷新の一環として、48V マイルドハイブリッド技術を採用したガソリンエンジンモデルが、欧州でも販売されることになった。**新型 BMW 740 xDrive** のボンネット下に

搭載される直列 6 気筒エンジンは、BMW の最新モジュラー世代に属し、欧州市場向けにさらに改良が加えられている。新型ターボチャージャーなどの改良により、出力は 14 kW/20 hp 増の 294 kW/400 hp となった。最大トルクは 520 Nm (383 lb-ft) から 540 Nm (398 lb-ft) に向上し、マイルドハイブリッド技術によりさらに 40 Nm (29 lb-ft) を一時的に増強できる。複合燃費は 9.4~8.6 リットル/100km (30.1~32.8 mpg imp) となり、CO<sub>2</sub>排出量は 1km あたり 211~189 グラムとなる。BMW 740 xDrive は 0 から 100 km/h (62 mph) までの加速を 5.1 秒で完了し、電子制御による最高速度は 250 km/h (155 mph) に達する。

ガソリンエンジンはミラー燃焼サイクルを採用しており、吸気バルブの開弁時間を短縮することでエンジン効率を向上させている。最適化された吸気ポートや燃焼室に加え、エンジンには電子制御機能を内蔵したアクティブコイルを備えた点火システムも搭載されている。バルブ機構は吸気側に VALVETRONIC による完全可変制御を採用しており、

eVANOS 技術により、排気側でも可変バルブタイミングが可能となっている。必要に応じてガス交換を遮断する切り替え式ロッカーアームにより、オーバーラン時のエンジンのドラッグトルクを約 3 分の 2 低減する。ドライバーがアクセルを緩めると、回生ブレーキにより、ブレーキエネルギーのより大きな割合をマイルドハイブリッドシステムのジェネレーターで吸収し、48V バッテリーに供給することができる。

これにより、非常に低速での短距離走行（いわゆる「クリープ走行」）も純粋な電気駆動で行える。VANOS 可変カムシャフトタイミングは電動式で動作し、エキゾーストマニホールドはシリンダーヘッドに統合されている。混合気形成にはデュアルインジェクションシステムが採用されており、高圧噴射に加え、低圧システムを介して一部の燃料を燃焼室に送り込むことが可能だ。

### **BMW 740d xDrive は、卓越した安定感と確かな走りを備えた魅力的なディーゼルモデル。**

直列 6 気筒ディーゼルエンジンを搭載した BMW 7 シリーズモデルは、欧州およびその他の選定された販売地域において、年末、**BMW 740d xDrive** のパワートレインも、BMW の最新モジュラー世代に由来するものであり、モデルチェンジの一環としてさらに改良が加えられた。出力は 10 kW/13 hp (230 kW/313 hp へ) に加え、特にエンジンの音響特性がさらに洗練された。これにより、新型 BMW 740d xDrive ディーゼルモデルは、卓越した落ち着きと確かな走りを兼ね備えた魅力的な選択肢となっている。

2 段階ターボチャージャーを備えた 3.0 リッター直列 6 気筒エンジンは、ソレノイドバルブ式インジェクターを採用したコモンレール直噴システムを搭載しており、1 回の作動行程につき最大 12 回の噴射を行い、最大 2,500 バールの圧力を発生させる。このディーゼルエンジンは、48V マイルドハイブリッドシステムの支援により、最大トルク 670 Nm (494 lb-ft) を発揮する。トルクの持続的な立ち上がりが、0 から 100km/h (62mph) までの加速を

5.7 秒で加速する。WLTP テストサイクルで測定された複合燃費は 100km あたり 7.2~6.5 リットル (39.2~43.5 mpg imp)、CO<sub>2</sub>排出量は 1km あたり 191~172 グラムであり、このエンジンの卓越した効率性を裏付けている。

化石エネルギー源に依存しない燃料は、CO<sub>2</sub>排出量を削減する上で特に大きな可能性を秘めている。最新の BMW ディーゼルエンジンは、多くの旧型モデルと同様に、すでに再生可能燃料を使用できる。実際、REDII<sup>14</sup> に準拠した再生可能燃料 (CNF) を使用すれば、新たなインフラを整備することなく、化石燃料由来の CO<sub>2</sub> 排出量を大幅に削減して車両を走行させることが可能だ。BMW がドイツの生産工場での初回給油に用いた HVO100 燃料で実証したように、従来のディーゼル燃料と比較して最大約 90% の削減が実用上可能である。

BMW グループは現在、実際にどの燃料が使用されたかを明確に記録するデジタルプロセスを開発中だ。これ

は給油所と車両の給油データを照合することで実現され、これらの燃料のみを動力源とする車両について、フリート規制ガイドラインの下で CO<sub>2</sub>排出量を 0 g/km (BEV と同様) と評価すべきであるという我々の主張を裏付けるものである。BMW グループはかねてより、自社の車両が幅広い再生可能燃料に対応できるよう確保してきた。具体的には、ディーゼルエンジン向けには EN15940 準拠の HVO および e-フューエルに加え、B10 および EN590 準拠の再生可能燃料、ガソリンエンジン向けには EN228 準拠の E20/25 および e-フューエルである。

#### **48V マイルドハイブリッドシステム：8 速ステップトロニック・スポーツ・トランスミッションに搭載されたクランクシャフトマウント型スタータージェネレーター。**

すべての内燃機関搭載 BMW 7 シリーズモデルに採用されている 48V マイルドハイブリッドシステムの核心は、8 速ステップトロニック・スポーツ・トランスミッションのコンパクトなハウジング内に配置された電気モーターである。このトランスミッションは同セグメントで唯一のタイプであり、必要なパワーエレクトロニクスも一体となっている。このモーターはクランクシャフト搭載型スタータージェネレーターとして機能し、内燃機関がスムーズかつダイナミックで、同時に効率的な走行性能を発揮できるよう支援する。このマイルドハイブリッドシステムは、200 Nm (147 lb-ft) のトルクを発生させる。

<sup>14</sup>EU 再生可能エネルギー指令 (EU) 2018/2001

また、走行状況に応じて最大 13 kW の出力増強が可能だ。この追加の駆動トルクにより、発進時や急加速時において、アクセルペダルのわずかな動きにも驚くほど瞬時に反応する。強力なスタータージェネレーターは、オートマチック・スタート/ストップ機能のより快適な動作も可能にする。

この電力ブーストに必要なエネルギーは、

ラゲッジルームの下に設置された 48V バッテリーに蓄えられる。これは惰行時や制動時の回生充電によって充填され、これまで利用されなかった制動エネルギーを効率的に回収する手段となる。48V バッテリーは、電気モーターへの供給に加え、電圧変換器を介して車両の 12V 電気システムにも電力を供給する。

#### **改良された内燃機関を搭載し、荷室容量に制限のない 2 つのプラグインハイブリッドモデル。**

年内に、BMW 7 シリーズ セダンのパワートレインラインナップに、再び 2 つのプラグインハイブリッドモデルが加わる。両モデルとも、ハイブリッドシステムの内燃機関 (ICE) として採用される直列 6 気筒エンジンの改良の恩恵を受ける。BMW 740 xDrive と同様、改良点には新しいターボチャージャーの採用が含まれる。電動アシストは、定格出力 145 kW/197 hp の永久磁石同期モーターが担う。マイルドハイブリッドモデルと同様に、このモーターはパワーエレクトロニクスと共に 8 速ステップトロニック・トランスミッションのハウジング内に組み込まれており、追加のスペースを必要としない。このモーターは、車体下部に組み込まれた第 5 世代の高電圧リチウムイオンバッテリーから電力を供給され、18.7 kWh の実用エネルギーを蓄えることができる。これにより、WLTP サイクルで 80 km (50 マイル) <sup>15</sup> を超える高い電気走行距離を実現しつつ、マイルドハイブリッドのガソリンおよびディーゼルモデルと比較してほぼ変わらない荷室容量と、ほぼ同等の燃料タンク容量を維持している。また、これによりプラグインハイブリッド車は低重心化され、ハンドリング性能に好影響を与えている。最大充電容量は現在 11kW となっており、高電圧バッテリーは空の状態から 2 時間 15 分でフル充電が可能だ。充電器に接続すれば一般的な家庭用コンセントを使用した場合、車両のフル充電には約 10 時間 45 分かかる。

**BMW 750e xDrive** では、内燃エンジンと電気駆動ユニットが連携してシステム出力 360 kW/489 hp を発生

し、直列 6 気筒エンジンは 230 kW/313 hp を、最大システムトルクは 700 Nm (516 lb-ft) をそれぞれ担う。0-100 km/h (62 mph) 加速はわずか 4.8 秒で、最高速度は電子制御により 250 km/h (155 mph) に制限されている。純電気モードでは 140 km/h (87 mph) の走行が可能だ。WLTP 複合燃費は 100km あたり 6.1~5.0 リットルのガソリン (46.3~56.5 mpg imp) および 17.7~16.2 kWh の電力で、複合 CO<sub>2</sub>排出量は 1km あたり 138~113 グラムである

<sup>15</sup> 気温が-10°C を下回る場合、プラグインハイブリッドモデルの全電気駆動機能は、数マイル走行してバッテリーが動作温度まで暖まってからでないと作動しない。

プラグインハイブリッドの BMW M パフォーマンス・モデルである **BMW M760e xDrive** は、さらにダイナミックなドライビング体験を提供する。このモデルでは、直列 6 気筒エンジンの出力が 313 kW/426 hp に向上している。これにより、ハイブリッドシステムは合計出力 450 kW/612 hp を達成し、前モデル比で 30 kW/41 hp の向上となっている。最大トルクは 800 Nm (590 lb-ft) だ。新型 BMW M760e xDrive は、0-100km/h 加速をわずか 4.2 秒で達成する。

静止状態から 100 km/h (62 mph) まで、1 フィート・ロールアウト法<sup>16</sup>を用いると、100 km/h (62 mph) 到達時間はさらに速い 3.9 秒となる。BMW 750e xDrive と同様、最高速度は電子制御により 250 km/h (155 mph) に電子制御で制限されており、全電気走行時は 140 km/h (87 mph) となる。BMW M760e xDrive の WLTP 複合燃費は、100 キロメートルあたり 6.8~5.6 リットル (41.5 – 50.4 mpg imp) に加え、100km あたり 18.2 – 16.7kWh の電力を消費する。新型 BMW M760e xDrive にはさらに、そのスポーティなキャラクターにふさわしい M 特有のサウンドを生み出す専用エキゾーストシステムが搭載されている。

<sup>16</sup> ロールアウトを差し引いた値: この代替測定方法では、光バリアを通過した後のみ計測が開始される。測定に算入されない距離 (「ロールアウト」) は 1 フィート=30.48cm である。

## 運転支援システム

次世代のテクノロジー・ツールキットと人工知能の活用範囲の段階的な拡大により、新型 BMW 7 シリーズ セダンは、部分自動運転および駐車において、これまで以上に使いやすく、さらに安全なアシスト機能を提供する。

- **新機能：「エントリー・トゥ・エグジット」機能（高速道路）および「アドレス・トゥ・アドレス」機能（市街地）。革新的な SAE レベル 2 の運転支援システムとアクティブセーフティ機能が、顕著な付加価値をもたらす。**
- **新機能：BMW Symbiotic Drive は、人間と人工知能の相互作用において、ドライバーが常に運転に関与し続けられるようにする。**
- **新機能：モーターウェイ・アシスタントにより、高速道路上で時速 130km (81mph) までのハンズフリー走行が可能となった。現在、欧州諸国をはじめ、世界各国で利用可能だ。**
- **新機能：ナビゲーション連動型「Address-2-Address」運転支援。新開発の City Assistant<sup>17</sup> および BMW Symbiotic Drive を搭載。**
- **標準装備のドライビング・アシスタント・プラスにより、ステアリング操作とブレーキ操作が容易になる。**
- **先代モデルよりもさらに充実した標準装備のアクティブ・セーフティ機能。**
- **新機能：駐車がこれまでになく簡単になった。ステアリングホイールから直接、標準装備の新型パークアシストを起動でき、AI による駐車スペースの検知と操作計画が可能だ。**

<sup>17</sup>2026 年後半にドイツで導入が開始される。その後、無線アップデートを通じて、欧州の他の多くの国々へと順次拡大される予定だ。米国では、当初は信号機での停止・発進支援のみとなる。その他の機能は後日追加される。

**高速道路での「エントリー・トゥ・エグジット」や、市街地での「アドレス・トゥ・アドレス」。革新的な SAE レベル 2 の運転支援システムとアクティブセーフティ機能が、顕著な付加価値をもたらす。**

新型 BMW 7 シリーズ セダンには、大幅なアップグレード、機能拡張、そして BMW シンビオティック・ドライブを特徴とする「ノイエ・クラッセ」・テクノロジークラスターから、革新的な SAE レベル 2 の運転支援システムとアクティブセーフティ機能が搭載されている。オプションの「モーターウェイ・アンド・シティ・アシスタント」を装備した場合、これには高速道路での「エントリー・トゥ・エグジット」支援と、市街地での「アドレス・トゥ・アドレス」支援が含まれる。

**BMW のシンビオティック・ドライブは、人間と人工知能の相互作用において、ドライバーが常に運転に関与し続けられるようにする。**

BMW の先進的なレベル 2 運転支援システムは、支援機能と人間の運転習慣とのシームレスな連携を実現するため、細部に至るまで設計されている。その目的は、あらゆる状況で可能な限り高い自動化レベルを達成することではなく、最大限の利便性を提供しつつ、常にドライバーが制御可能な安全な運転支援体験を実現す

ることにある。その結果、ドライバーは常に人間と人工知能の相互作用に関与し続ける。例えば、運転支援が作動している際でも、ドライバーは必要に応じて加速、ステアリング操作、ブレーキ操作を行うことができ、その過程で支援システムが即座に無効化されることはない。BMW パノラミック iDrive の明確な操作ロジックと表示により、支援走行は常に直感的で制御可能であり、最高レベルの SAE レベル 2 自動化を安全に活用できる。ドライバーと車両の共生的な相互作用は、レーン・キーピング・アシスタントのような、バックグラウンドで目立たず「静かな相棒」として機能するアクティブ・セーフティ機能でも体験できる。ステアリング操作や視線の向きに基づいてドライバーの意図を判断するため、システムは、ドライバーが意図せず車線を逸脱しようとした場合や、衝突の危険が検知された場合にのみ、警告やステアリング操作の補助を行う。

**「モーターウェイ・アシスタント」は、高速道路において最大時速 130km (81mph) までの高速道路でのハンズフリー走行を可能にし、現在では欧州諸国をはじめ世界各地で利用可能。**

モーターウェイ・アシスタントは、時速 130km (81mph) までの高速道路でのハンズフリー走行を可能にし、欧州諸国をはじめ世界各地で、BMW マップによるナビゲーション誘導型の「エントリー・トゥ・エグジット」走行をサポートする。これを行うため、ドライバーの視線による確認信号に従って自動車線変更を行い、また、高速道路のジャンクションを走行することも可能だ。ドイツ、カナダ、米国の顧客は、前世代の「モーターウェイ・アシスタント」技術を使用し、ハンドルから手を離れた状態ですでに 1 億 9000 万キロメートル (1 億 1800 万マイル) を走行している。

**新しいシティ・アシスタント<sup>18</sup>および BMW シンビオティック・ドライブによる、ナビゲーション誘導型の「アドレス・トゥ・アドレス」運転支援。**

BMW は顧客に卓越したドライビング体験を提供しており、運転支援機能においても同様だ。BMW Maps によるルート案内が有効な場合、新開発のシティ・アシスタントは、道路からの進入時、優先権の判断、信号機での停止および発進（前方に車両がない場合でも）、ロータリーの通過、さらには市街地での車線変更においても、ドライバーを支援する。ただし、これらはすべて、システムがドライバーが注意を払っていることを検知した場合に限られる。このアシストシステムは、ルート案内が有効でない場合でも、ドライバーに幅広いサポートを提供する。

「モーターウェイ・アシスタント」と同様に、「シティ・アシスタント」も車両センサーと人工知能（極めて高精度なデジタルマップと連携して動作）の両方を活用している。これにより、「シティ・アシスタント」は、道路への合流時に自信を持って前進するなど、自然な運転動作を通じて、困難な状況下でドライバーを支援することができる。この「アドレス・トゥ・アドレス」の運転体験において、シティ・アシスタントはナビゲーションルート全体を通じてドライバーをサポートし、BMW シンビオティック・ドライブは、アシスト機能が常にドライバーの意図に基づいて動作することを保証する。つまり、どのような走行状況においても、ドライバーはシステムを無効にすることなく、ドライバー・アシスタンス技術と協調して運転できる——つまり、普段通りブレーキをかけ、ハンドルを切り、アクセルを踏むことができる。ドライバーの操作とドライバー・アシスタンスは、滑らかかつ直感的な形で連携する。

**標準装備のドライビング・アシスタント・プラスにより、ステアリング操作とブレーキ操作が容易になる。**

BMW 7 シリーズには、すでに「ドライビング・アシスタント・プラス」が標準装備されている。このシステムは、ドライバーの指示に応じて車速や前車との車間距離を制御し、車線内での走行を容易に維持する。また、検知された速度制限や、コーナー、ロータリー、曲がり角への進入前に、自動的に車速を調整することも可能だ。ドライバーは、いずれかの運転支援システムが作動している間は、常に注意を払い、いつでも操

作を引き継げる態勢でいなければならない。

### **先代モデルよりもさらに充実した標準装備のアクティブセーフティ機能を備えている。**

BMW Symbiotic Drive のおかげで、アクティブセーフティ機能は、ドライバーが注意散漫だったり状況を制御できていなかったりする場合にのみ、危険が検知された際に介入する。安全機能には、アクティブレーンリターン機能付きレーンキープアシスト、自車線内での自動回避操作、車線変更警告、横方向の衝突リスクがある際のステアリング介入付きサイドコリジョン警告に加え、交差交通警告や、道路への進入時や駐車場からの出庫時の自動ブレーキが含まれる「緊急ブレーキアシスト（回避アシスト付）」は、必要に応じて最大制動力を発揮して正面衝突の防止に効果的に寄与するほか、道路を横断する野生動物に対しても同様の対応を行うようになった。さらに、ドア開放警告機能は、例えば自転車が接近している場合などに、ドアの開閉を遅らせる。

<sup>18</sup>導入は2026年後半にドイツで開始される。その後、無線アップデートを通じて他の多くの欧州諸国へと順次拡大される予定だ。米国では当初、信号機での停止および発進の支援機能のみが提供される。その他の機能は後日追加される。

### **駐車はかつてないほど簡単になった。ステアリングホイールから直接起動できる新標準装備のパークアシスト、AIによる駐車スペースの検知と操作計画機能により実現した。**

標準装備の「パークアシスト」は半自動駐車が可能で、新たに設計された周辺エリアの視覚表示により、検知された駐車スペースの選択がさらに直感的に行えるようになった。自動駐車操作は、これまで以上に迅速かつスムーズに行われる。オプションの「パーキングアシスタント・プラス」は、360°の全方位ビューを提供し、縁石ビュー、3Dビュー、洗車ビューを切り替えることができる。また、マヌーヴァ・アシスタントも用意されており、繰り返し行う操作を記録し、実行することができる（最大200メートルの距離に対応）。

「パーキング・アシスタント・プロフェッショナル」は完全なパッケージを提供し、さらに「My BMW」スマートフォンアプリを使用して、最大6メートル離れた場所から駐車操作や保存された操作をリモートで実行するための幅広いオプションを備えている。

すべての運転支援および駐車支援機能は、後日 BMW ConnectedDrive Store からデジタルで有効化することも可能だ。

## **ドライビングダイナミック**

最新世代のBMW 7シリーズ セダンは、BMW が誇るダイナミックな走りの実力と、自らハンドルを握るオーナーのためのスポーティな走り、そして運転手付きのセダンならではの卓越した快適性の両立を、再び見事に成し遂げている。一言で言えば、これは「運転する喜び」と「乗せてもらう喜び」が融合した場所だ。

シャシー技術は、世界中の多様な顧客の好みと、従来の内燃機関からプラグインハイブリッド、そして全電気パワートレインに至るまで、提供される幅広い駆動システムの両方に配慮して設計・チューニングされている。

- **新機能：工場装着の22インチホイールが初めて設定された。エントリーモデルのタイヤ幅も拡大され、直径は20インチ以上となった。**

- 電子制御ダンパーを備えたアダプティブ 2 軸エアサスペンションを標準装備し、快適かつ確かなハンドリングを実現する。
- インテグラル・アクティブ・ステアリングを備えたアダプティブ・シャシー・コントロールは、さらなる快適性と俊敏性を実現する最初のオプションアップグレードとなる。
- インテグラル・アクティブ・ステアリングとアクティブ・ロール・スタビライゼーションを備えた「アダプティブ・シャシー・コントロール・プロフェッショナル」により、最高の乗り心地とハンドリングの精度を実現する。
- BMW M パフォーマンス・モデル、M スポーツ・パッケージ、および M スポーツ・パッケージ Pro。
- デジタルタイヤ診断は、
- これにより、パンクやタイヤの摩耗を未然に防ぐことができる。
- 統合ブレーキシステムは、車両を迅速かつ正確に減速・安定化させることで、卓越したドライビングダイナミクスと車両制御性を実現する。
- 極めて迅速かつ正確：アクチュエーター直結型のホイールスリップ制限。

**初めて純正 22 インチホイールが設定された。エントリーモデルのタイヤ幅が拡大され、直径は 20 インチ以上となった。**

新型 BMW 7 シリーズ セダンは、直径 20 インチ以上のホイールと、より幅広のエントリーモデル用タイヤを標準装備し、車両のダイナミックなハンドリング性能をさらに向上させた。フロントアクスルには 255/45 R20 のタイヤが装着されており、つまり、先代モデルより 10 ミリメートル広い。ホイールには現在、サイズが異なるタイヤが装着されており、リアタイヤのサイズは 285/40 R20。これは、幅がさらに 30 ミリメートルも拡大したことを意味する。BMW i7 の各モデルには、航続距離を延長する特殊なサマータイヤが装着されており、フロントタイヤにはさらに、静粛性を高めるために空洞部分に吸音フォームの層が追加されている。21 インチホイールには、フロントに 255/40 R21、リアに 285/35 R21 のタイヤが装着される。22 インチホイール用のタイヤサイズは、フロントが 255/35 R22、リアが 285/30 R22 または 295/30 R22 となる。20 インチおよび 21 インチホイールに冬用タイヤを装着した仕様も用意されている。フロント 1,664 ミリメートル、リア 1,648 ミリメートルの広いトレッドは、ダブルウィッシュボーン式フロントサスペンションおよび 5 リンク式リアサスペンションと相まって、卓越した機敏性、正確なステアリング、そして高い横方向加速度を実現するための最適な装備となっている。フロントエンドのアルミ製シアパネルがねじれ剛性をさらに高め、リアアクスルサブフレームのハイドロマウント (BMW i7 モデルでは双方向) が、高い乗り心地の良さを実現している。

**電子制御ダンパーを備えたアダプティブ・2 軸エアサスペンションを標準装備し、快適かつ確かなハンドリングを実現する。**

BMW 7 シリーズ セダンの全モデルには、自動レベル調整機能付きアダプティブ 2 軸エアサスペンションと、電子制御ダンパーを備えたアダプティブサスペンションが標準装備されている。サスペンションへのエア供給は各ホイールごとに個別に制御されるため、車体の荷重バランスが不均一な場合でも均一化される。これ

により、アダプティブ 2 軸エアサスペンションはあらゆる速度域で常に最適な車高を維持し、快適かつ安定したハンドリングを実現する。さらに、このシステムでは走行状況に合わせて車高を調整することも可能だ。SPORT モードでは車高が自動的に 10 ミリメートル低下し、その他のすべての My Mode では、速度が最高速度は 140 km/h (87 mph)、BMW i7 の場合は 120 km/h (75 mph) だ。また、悪路や、ガレージへの入り口にある急勾配のスロープなどを走行する際、ボタンひとつで車高を 20 ミリメートル上げることができる。

ダンパーは各ホイールごとに電子制御され、乗り心地の快適性と安定性を向上させると同時に、BMW 7 シリーズに鋭いハンドリング性能をもたらす。リアダンパーのロッドアイは、調和のとれた圧縮挙動と、路面の小さな凹凸や段差に対する優れた乗り心地を確保する。ダンパーは路面状況と運転スタイルの両方に適応的に反応し、その過程で圧縮と伸張が互いに独立して滑らかに調整される。ダンパーの基本設定も、選択された「My Mode」によって異なる。

SPORT モードでは、ダイナミックなハンドリングを実現するために最適なダンパー特性が作動し、他のすべての My Modes で採用されている快適性を重視したダンパー設定とは明確な違いが感じられる。

### **インテグラル・アクティブ・ステアリングを備えたアダプティブ・シャシー・コントロールは、さらなる快適性と俊敏性を実現する最初のオプションアップグレード。**

最初に利用可能なオプションのシャシーアップグレードは、新たに命名された**アダプティブ・シャシー・コントロール**であり、アダプティブ 2 軸エアサスペンションとインテグラル・アクティブ・ステアリングを組み合わせたものだ。標準装備の電動パワーステアリングシステム（サーボトロニックによる速度感応型パワーアシスト、ステアリング角度に応じて変化するギア比、さらに非常にスポーティなレスポンスと快適性を重視したレスポンスの 2 つの設定から選択可能で、これらは「My Modes – Integral Active Steering」は、小回りをさらに容易にし、中速域での機敏性を高め、高速での車線変更やコーナリング時の安定性と安心感を向上させる。このため、車速に応じて、後輪を前輪と同じ方向、あるいは反対方向に最大 3.5 度まで切り込む。低速時に後輪を前輪と逆方向に切ることにより、車両が停止するまで容易な操作が可能となる。これにより、最小回転半径が約 0.8 メートル縮小する。BMW M パフォーマンス・モデルでは、アダプティブ・シャシー・コントロール・システムに専用のチューニングが施されている。

### **インテグラル・アクティブ・ステアリングとアクティブ・ロール・スタビライゼーションを備えた「アダプティブ・シャシー・コントロール・プロフェッショナル」は、最高の乗り心地とハンドリングの精度を実現する。**

一部のモデルでオプション設定されている「**アダプティブ・シャシー・コントロール・プロフェッショナル**」（旧称：エグゼクティブ・ドライブ・プロ）は、BMW 7 シリーズの乗り心地だけでなく、その俊敏性やステアリングの精度をも最大限に引き出す新たな選択肢を顧客に提供する。このシステムには、車体中央に配置された 48V 電動モーターとアクティブ・アンチロールバーを用いたアクティブ・ロール・スタビライゼーション機能が追加されており、ダイナミックなコーナリング時に車体のロールを引き起こす横方向の力を、極めて迅速かつ正確に抑制する。アダプティブ・シャシー・コントロール・プロフェッショナルは、車体のロールをより効果的に安定させる能力により、俊敏性、直進安定性、ハンドリングの精度を向上させるとともに、極めてダイナミックなステアリングレスポンスを実現する。その結果、ドライバーはステアリングからの極めて正確な反応と、とりわけ俊敏な走行性能を享受できる。また、走行状態に応じたロールモーメントの最適配分と、それによる前輪と後輪の接地力のバランスにより、アダプティブ・シャシー・コントロール・プロフェッショナルは横方向加速度とダイナミックなハンドリング性能のポテンシャルも高める。

アクティブロールスタビライザーは、従来のアンチロールバーによって各車軸の車輪間に生じる固定的な連結を解除することで、直進時の乗り心地も向上させる。その結果、直進時や横方向の加速度が低い状況下での車体振動の抑制も向上する。自動レベル調整機能付きのアダプティブ2軸エアサスペンションは、車両に重い荷物を積載している場合でもスプリングストロークの全範囲を維持するため、アクティブロールスタビライゼーションの追加により、よりソフトなエアスプリング設定を有効にし、乗り心地を向上させることが可能となる。アンチロールバーの分離により、車両片側の路面凹凸によって生じる車体のロール量が低減される。これにより、横方向の加速度と、それが引き起こす不快な左右への頭部の揺れが軽減される。

最新のBMW 7シリーズには、さらに一歩進んで、同時に車両の該当側の車高を能動的に調整する機能も備わっている。アダプティブ・シャシー・コントロール・プロフェッショナル・オプションに含まれる機能の範囲により、7シリーズは極めて印象的なレベルの乗り心地と乗員快適性を提供できる。

### **BMW M パフォーマンス・モデル、M スポーツ・パッケージ、および M スポーツ・パッケージ・プロ。**

**専用チューニングを施したアダプティブ M シャシーコントロール・プロフェッショナル** (旧エグゼクティブ・ドライブ・プロ、M 専用チューニング仕様) は、新型7シリーズ・レンジのBMW M パフォーマンス・モデルに標準装備されている。また、これらには制動力が強化された M スポーツブレーキと、M ロゴをあしらったブラックまたはブルーのキャリパーに加え、ダイナミックなキャラクターを際立たせるバイカラー仕上げの21インチ M エアロダイナミックホイールが、特に印象的な効果を生み出している。

その他の全モデルバリエーションにオプションとして用意される M スポーツ・パッケージには、20インチ M エアロダイナミックホイールと、ブルーのキャリパーを備えた M スポーツブレーキが含まれる。

一方、M スポーツ・パッケージ・プロには、ブラックの21インチ M スタースポーク軽合金ホイールと、キャリパーがブラック・ハイグロス塗装、またはオプションでブルー・メタリック塗装された M スポーツ・ブレーキが含まれる。さらに、全く新しい21インチ M エアロダイナミックホイールや同サイズの BMW Individual ホイール (いずれもバイカラー仕上げ) に加え、22インチ BMW Individual 軽合金ホイールも、BMW 7シリーズ向けに初めて純正オプションとして用意された。

20インチおよび22インチの軽合金ホイールには、より高いコーナリング力を伝達できるゴムコンパウンドを採用したスポーツタイヤもオプションとして用意されている。

### **デジタルタイヤ診断は、人工知能を用いてタイヤの空気圧と摩耗状態を分析し、多くの場合、パンクやタイヤの摩耗によるトラブルを防ぐ。**

各ホイールごとの空気圧インジケーターに加え、新型BMW 7シリーズには、標準装備としてデジタルタイヤ診断機能も搭載されている。このセグメントでは唯一無二のこの機能は、クラウドベースのアルゴリズムを用いて、車両のタイヤ空気圧監視システムよりもはるかに早く空気圧の低下を検知する。これは、AIの活用により実装されたBMWのバックエンドにおける診断機能によって可能となっている。空気圧の低下が発生した場合、ドライバーには「My BMW」アプリを通じてその旨と推奨される対応策が通知される (市場によっては、テレサービスによるメッセージが送信される場合もある)。

また、統計情報とAI手法を活用することで、車両のタイヤの摩耗状況を予測し、推奨される最小溝深さに達するまでの残存寿命を算出することも可能だ。このデジタルタイヤ診断機能は、対応が必要なタイヤ関連の技術的問題が発生した場合、自動的に顧客に通知するよう設定できる。対象市場によっては、テレサービスメ

メッセージ、電子メール、または My BMW アプリを通じて通知が送信される。

### **統合ブレーキシステムは、車両を迅速かつ正確に減速・安定化させることで、卓越したドライビングダイナミクスと車両制御性を実現する。**

新型 BMW 7 シリーズ セダンには、卓越した制動力と優れたペダルフィールを実現する最新世代の統合ブレーキシステムが搭載されている。このシステムは、ブレーキの作動、ブレーキブースター、ブレーキスリップ制御、および車両安定化機能をコンパクトなモジュール内に統合している。ブレーキ圧は電動アクチュエーターによってブレーキシステムの油圧系に伝達される。この作動原理により、システム全体のダイナミクスが向上し、DSC（ダイナミック・スタビリティ・コントロール）による介入が大幅に高速かつ精密に行われる。統合ブレーキシステムは、ドライバーの操作に正確に合致した制動力を発生させると同時に、優れたペダルフィールも実現する。統合ブレーキシステムは、関連するブレーキ制御機能も提供する。制御入力、搭載されたセンサーを用いて個々の機能ごとに計算・作動される。入力はアクチュエーターによって極めて高速かつ高精度に適用され、ドライバー支援システムからの制動要求に対する極めて迅速な応答と、非常に短い制動距離を実現する。この統合ブレーキシステムには、回生ブレーキと摩擦ブレーキによって生成される制動力を、高い精度で組み合わせることができるという追加の利点がある。これは、新型 BMW 7 シリーズ セダンの従来型エンジン搭載モデルと電動化モデルの両方で実現されている。その結果、ドライバーはあらゆる状況において優れたブレーキフィールを楽しむことができる。

### **極めて迅速かつ正確：アクチュエーター直結型ホイールスリップ制限。**

新型 BMW 7 シリーズ セダンには、過酷な走行状況においても車両の俊敏性と安定性を最大限に引き出すため、アクチュエーター近傍でのホイールスリップ制限機能が搭載されている。このトラクション・コントロール・システムはエンジン・マネジメントに統合されており、DSC 制御ユニットへの信号経路が短縮されている。これにより、従来のシステムに比べて最大 10 倍の速さで、かつ極めて高い精度で補正制御を行うことが可能となる。アクチュエーター近接型ホイールスリップリミテーションは、滑りやすい路面でも最適なトラクションと卓越した直進安定性を確保する。この機能は、特に急加速時や高速コーナリング時にトラクションの低下を未然に防ぐため、DSC システムが個々の車輪に選択的にブレーキをかけることで、落ち着きと確信に満ちたハンドリングを維持するために介入する頻度が大幅に減少する。

## **製品設計と製造における持続可能性**

BMW グループは、サステナビリティ戦略に沿って、新型 BMW 7 シリーズにおいても製品のサステナビリティ分野における進歩を取り入れている。これらは特に、新しいバッテリー技術の採用や、ホイールリムにおける再生材料の割合増加に顕著に表れている。これらの取り組みは、実績のあるサステナビリティの手法を別の BMW モデルにも適用する、的を絞った改善策である。

### **新型 BMW i7 に搭載される第 6 世代バッテリーセル：車両において最も重要なコンポーネントにおける CO<sub>2</sub> 排出量を削減するための取り組み。**

再生材料の使用、再生可能エネルギーへの切り替え、そして様々な製品およびプロセスの革新を取り入れることは、CO<sub>2</sub>e 排出量を削減するための鍵となる要素だ。新型 BMW i7 に採用された第 6 世代バッテリーセルは、BMW i7 の高電圧バッテリーは、再生可能エネルギー由来の電力を多用して製造されており、負極および正極材料も同様である。さらに、これらのバッテリーセルの製造には、リチウム、コバルト、ニッケルの再

生材が一定割合で使用されている。これらの取り組みにより、サプライチェーン全体における CO<sub>2</sub>排出量は、前世代モデルと比較して約 30%削減される見込みだ。

#### **再生原料を多く含むアルミホイール。**

BMW i7 の新型ホイールリムは、2026 年以降、70%が再生アルミニウムで製造される。アルミニウム原料の電解精錬およびこれらのリムの製造は、いずれも再生可能エネルギーを用いて行われる。再生原料の含有率が高いすべての部品は、

BMW グループの厳格な品質基準を満たしており、資源の保全に貢献している。

#### **BMW グループのサステナビリティ目標。**

パリ協定への取り組み、および遅くとも 2050 年までのネットゼロ達成に向けた BMW グループのコミットメントは、企業戦略に明記された包括的な 360°サステナビリティ・アプローチの不可欠な要素を成している。同社は、今後数年間に向けて、科学的根拠に基づいた野心的な CO<sub>2</sub>e 削減目標を設定した。その結果、BMW グループは 2019 年の CO<sub>2</sub>e 排出量を、2030 年までに合計少なくとも 4,000 万トン、2035 年までに 6,000 万トン削減することを目指している。これは、既存の 2030 年目標に加えて、さらに約 2,000 万トンの CO<sub>2</sub>e 排出量を削減することを意味する。

#### **製品のカーボンフットプリントに関する透明性。**

BMW グループは、「Vehicle Footprint」イニシアチブの一環として、長年にわたり各モデルの TÜV 認証済み温室効果ガスフットプリントを公開してきた。このレポートは、新型 BMW 7 シリーズの全駆動システムバリエーションについて、生産開始時点で一般公開されており、「My BMW」アプリからもアクセス可能だ。これにより、使用される二次原料の割合や、車両のライフサイクル全体における CO<sub>2</sub>e 排出量に関する透明性が向上する。

#### **BMW グループ・ディンゴルフィンク工場での生産。**

新型 BMW 7 シリーズ セダンの全モデルは、BMW グループ・ディンゴルフィンク工場だ。ニーダーバイエルン州にあるこの施設は、BMW グループの高級車モデルを生産する中核工場であり、電力や暖房の供給において再生可能エネルギーへの依存度を高めている。例えば、外部から調達する電力はすべて再生可能エネルギー由来であり、場合によっては敷地内で直接発電も行われている。2025 年末には、工場の屋根面積 10 万平方メートルに設置された、出力約 11MWp の屋上太陽光発電システムが送電網に接続された。また、昨年末にはバイオマス熱供給プラントも稼働を開始し、地元で生産された再生可能熱の一部を工場に供給することを目指している。